

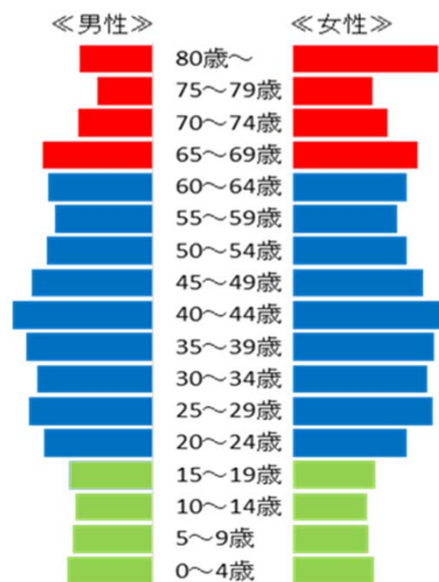
次期保健福祉総合計画 (高齢者分野)の現状

福岡市も例外なく超高齢社会を迎える 減少する0～19歳人口及び20～64歳人口, 増加する65歳以上人口

2015(平成27)年 152.5万人

うち 65歳以上 32.2万人

[高齢化率 21.1%]



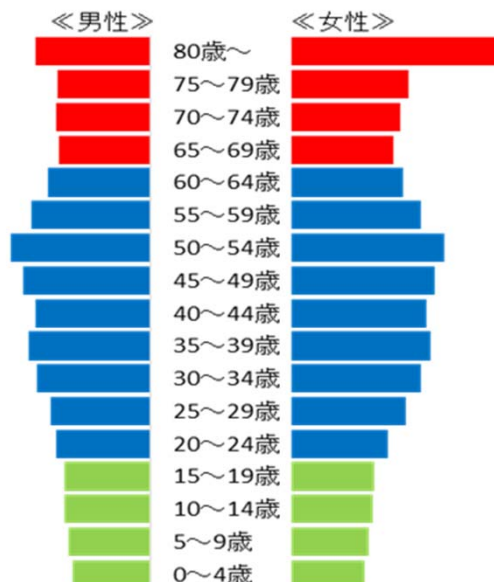
65歳以上の高齢者1人を

20～64歳の2.9人で支える社会

2025(平成37)年 159.2万人

うち 65歳以上 39.5万人

[高齢化率 24.8%]



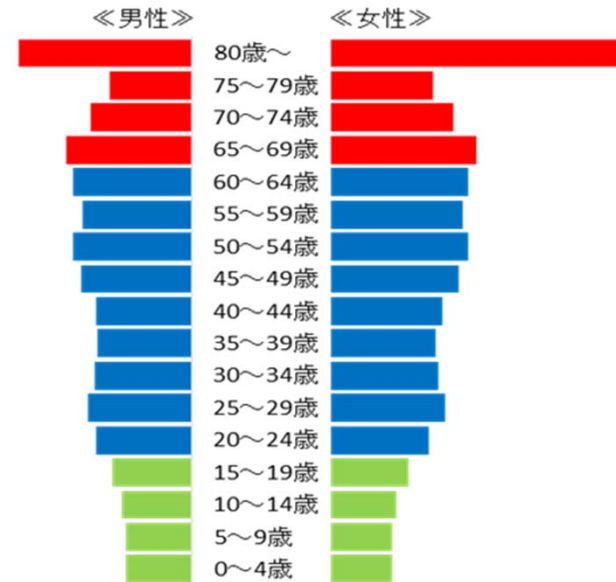
65歳以上の高齢者1人を

20～64歳の2.3人で支える社会

2040(平成52)年 160.1万人

うち 65歳以上 49.7万人

[高齢化率 31.0%]



65歳以上の高齢者1人を

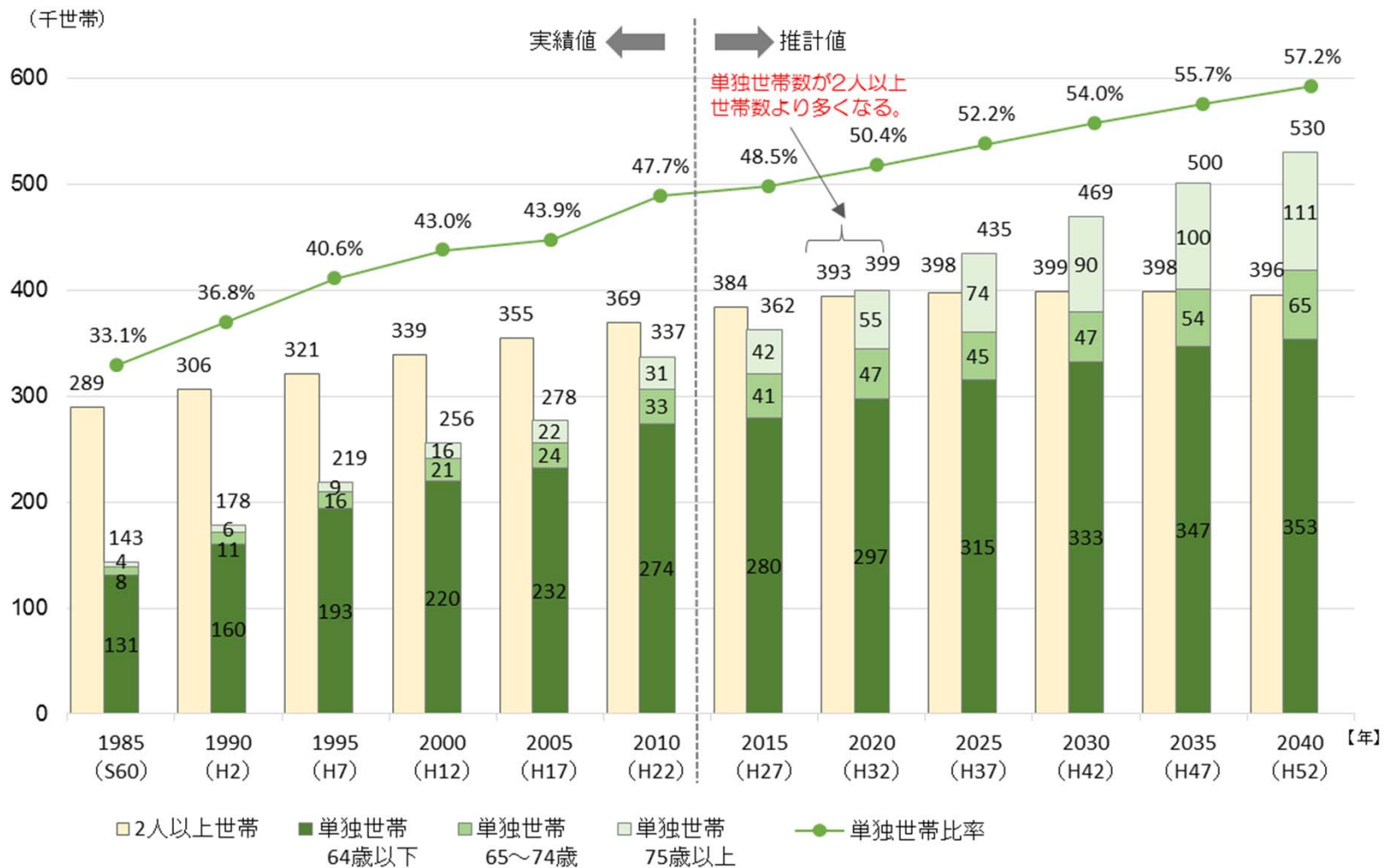
20～64歳の1.7人で支える社会

出典：福岡市の将来推計人口（平成24年3月）[福岡市]

(注) 高齢化率…総人口に占める65歳以上人口の割合

増加する後期高齢者の単身世帯

＜世帯構成の推移＞

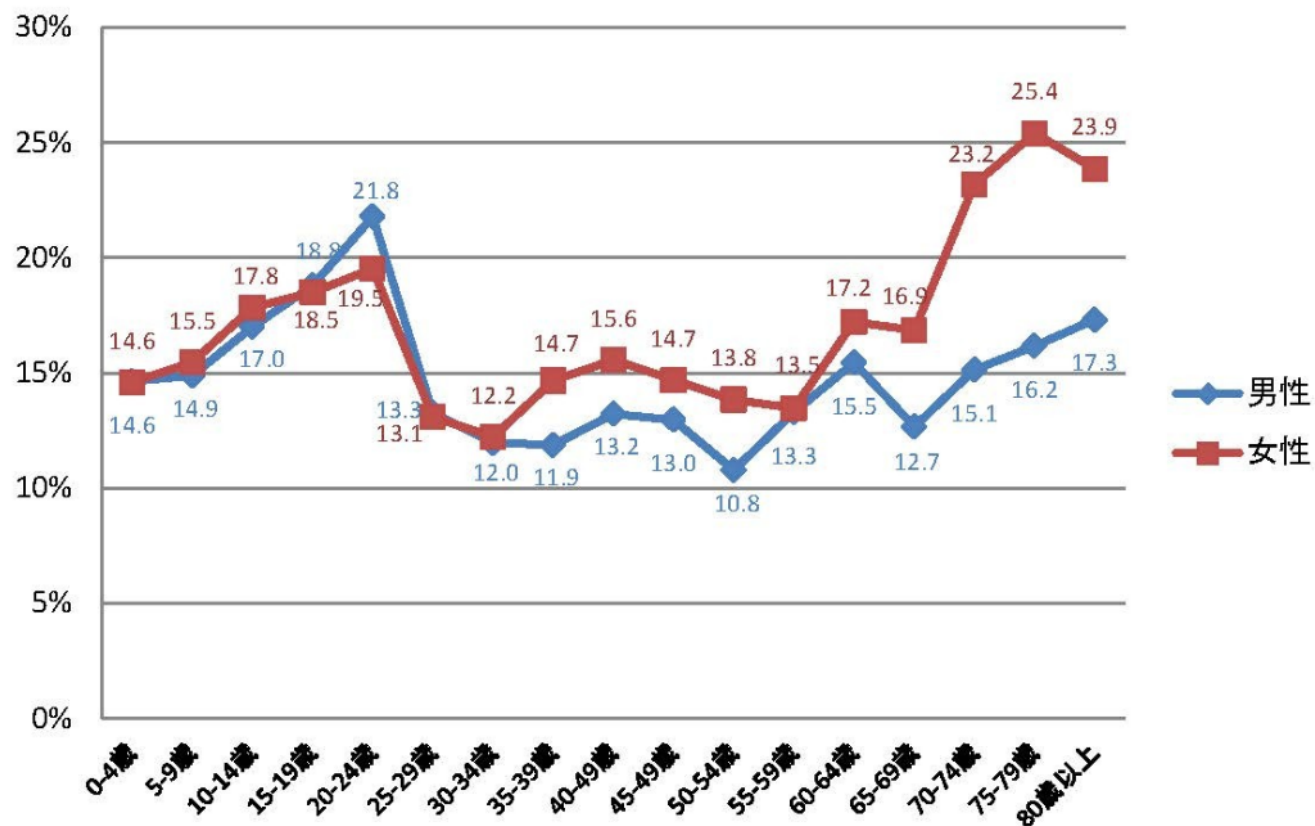


出典：国勢調査〔総務省〕
福岡市の将来推計人口（平成24年3月）〔福岡市〕

女性の貧困率

30歳台後半以降、男性に比べ常に高い 50歳台から急激に増加、70歳以上では20%超〈全国〉

＜性別、年齢層別 相対的貧困率(2012年)＞



出典：阿部彩(2014)「相対的貧困率の動向：2006, 2009, 2012年」 貧困統計ホームページ

＜データと定義＞

(注1) 厚生労働省「国民生活基礎調査」平成19, 22, 25年

(注2) 貧困率は、各調査年の前年の所得を聞いた質問から計算されるため、貧困率の該当年は2006, 2009, 2012年。

(注3) 所得の定義は、等価可処分世帯所得（世帯人数で調整した税後・社会保険料後・社会保障給付後の世帯合算所得）。

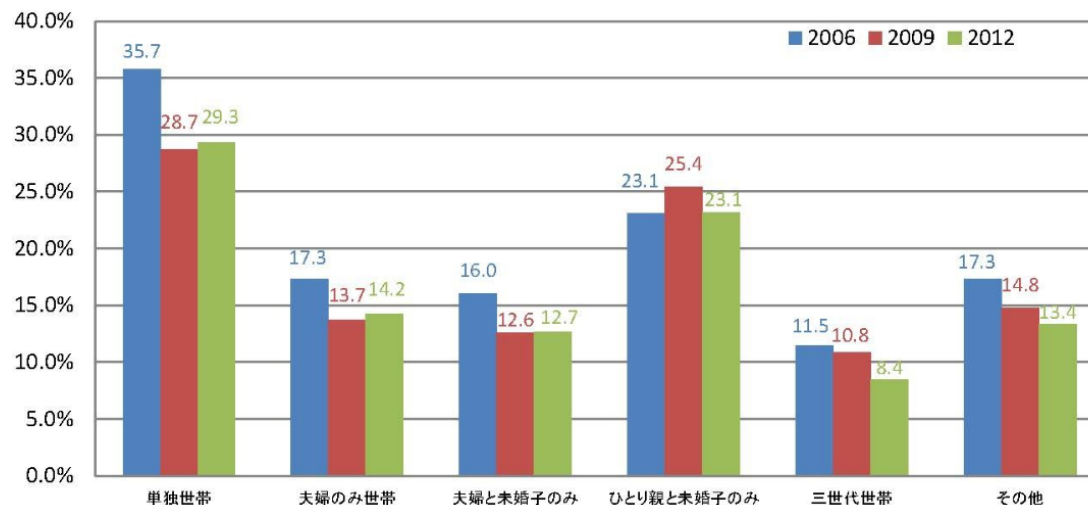
(注4) 世帯人数を調整する等価スケールは、世帯人数の平方根。

(注5) 相対的貧困率は、等価可処分世帯所得が中央値の50%以下のものの割合。

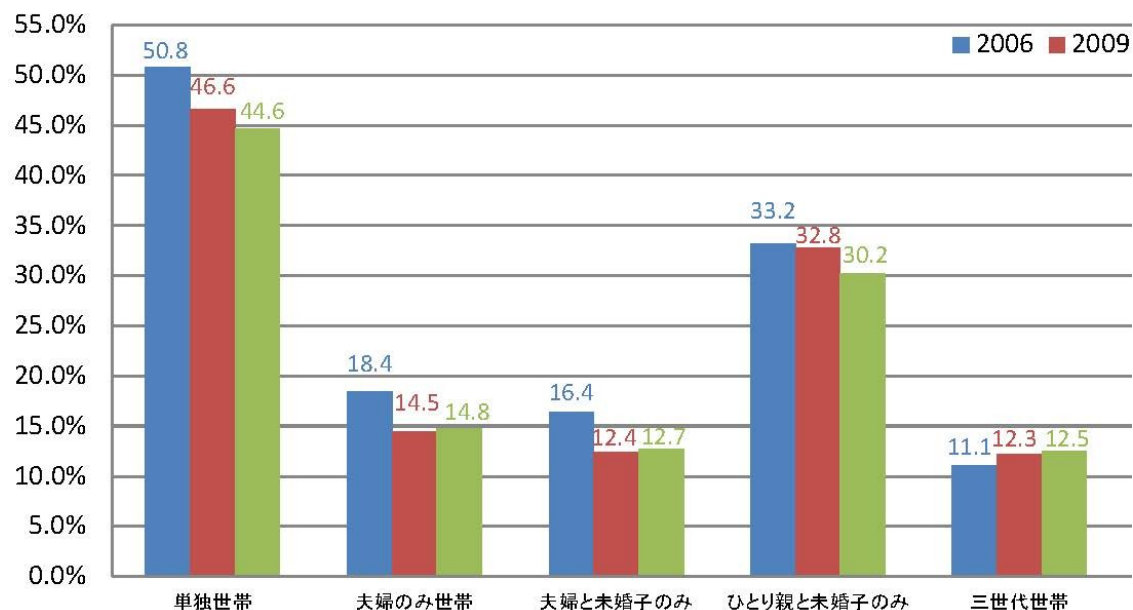
男女とも「単身世帯」、次いで「ひとり親と未婚子のみ世帯」の貧困率が高い〈全国〉

＜高齢者の貧困率：世帯タイプ別＞

男性



女性



出典：阿部彩(2014)「相対的貧困率の動向：2006, 2009, 2012年」貧困統計ホームページ

＜データと定義＞

(注1) 厚生労働省「国民生活基礎調査」平成19, 22, 25年

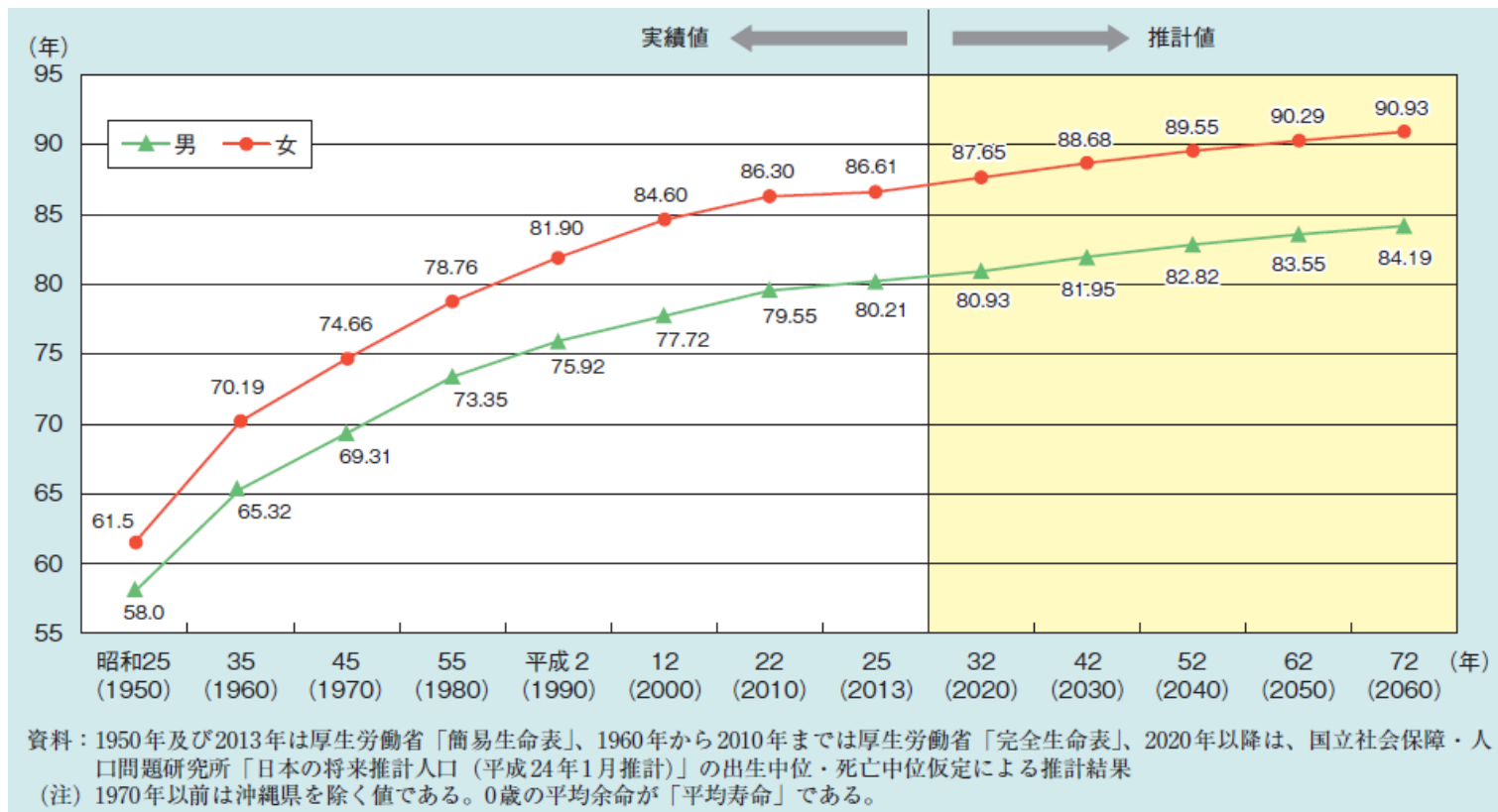
(注2) 貧困率は、各調査年の前年の所得を聞いた質問から計算されるため、貧困率の該当年は2006, 2009, 2012年。

(注3) 所得の定義は、等価可処分世帯所得（世帯人数で調整した税後・社会保険料後・社会保障給付後の世帯合算所得）。

(注4) 世帯人数を調整する等価スケールは、世帯人数の平方根。

将来の平均寿命 男性84.19歳, 女性90.93歳<全国>
65歳時の平均余命 男性約19年, 女性24年<全国>

＜平均寿命の推移と将来推計(全国)＞



＜65歳時の平均余命(全国)＞

	(年)		
	昭和30年 (1955)	平成25年 (2013)	延び
男	11.82	19.08	7.26
女	14.13	23.97	9.84

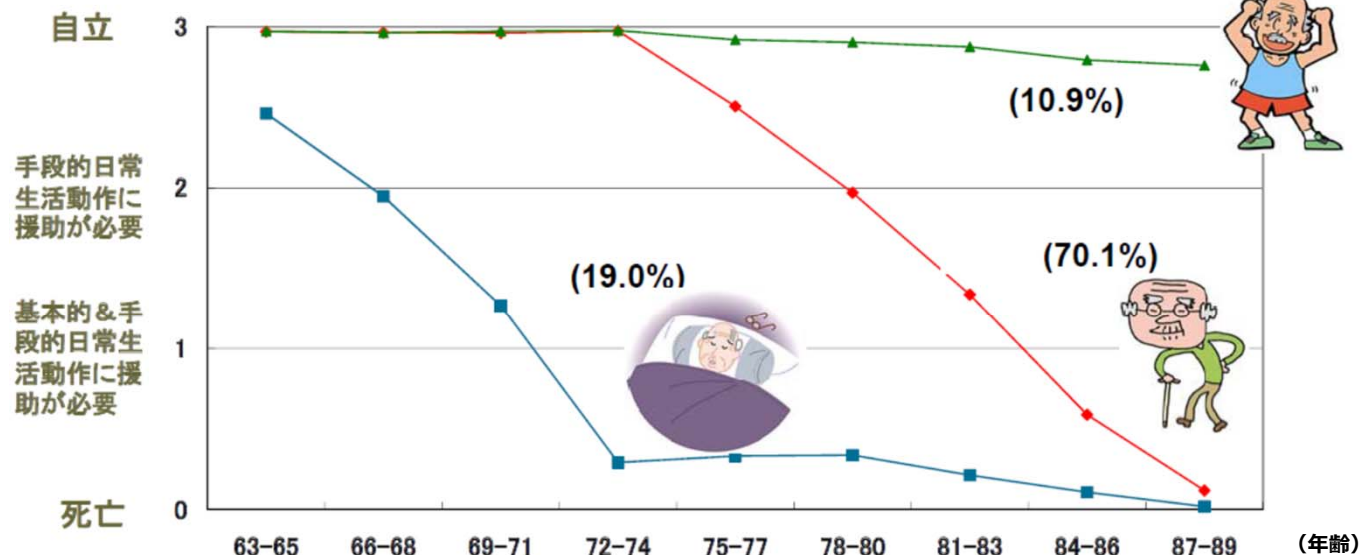
出典：平成27年版高齢社会白書（内閣府）

75歳までに急激に要介護状態になるグループ 男性19.0%，女性12.1%
 多くの人は、75歳ごろを過ぎると心身の虚弱化が始まる

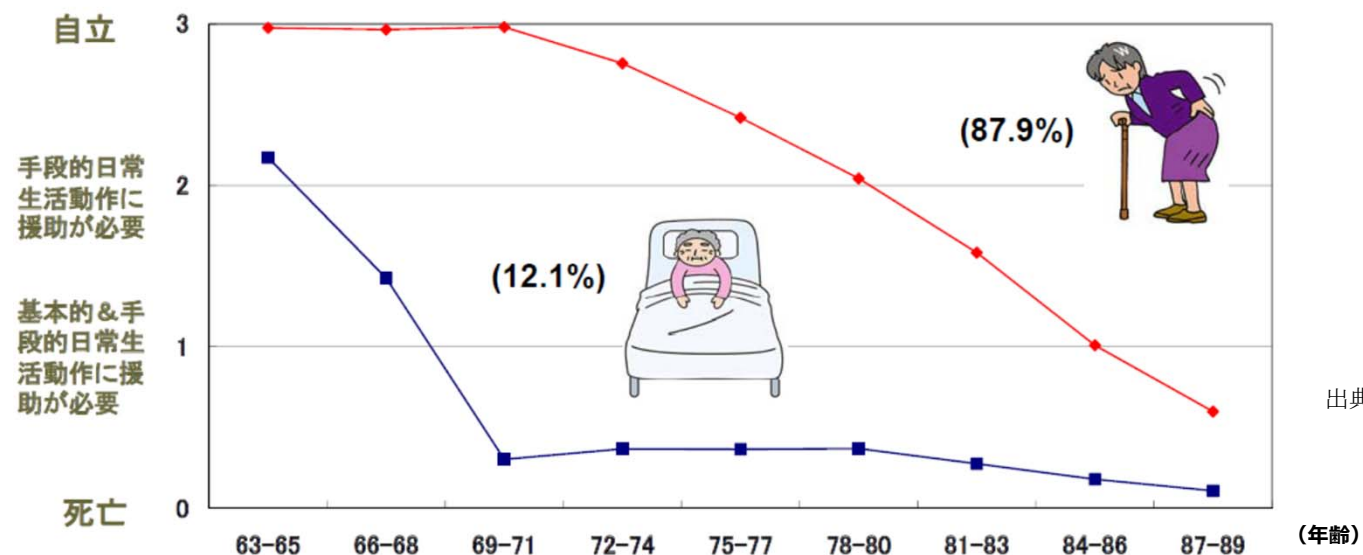
〈全国〉

＜自立度の変化パターン(全国)＞

【男性】



【女性】

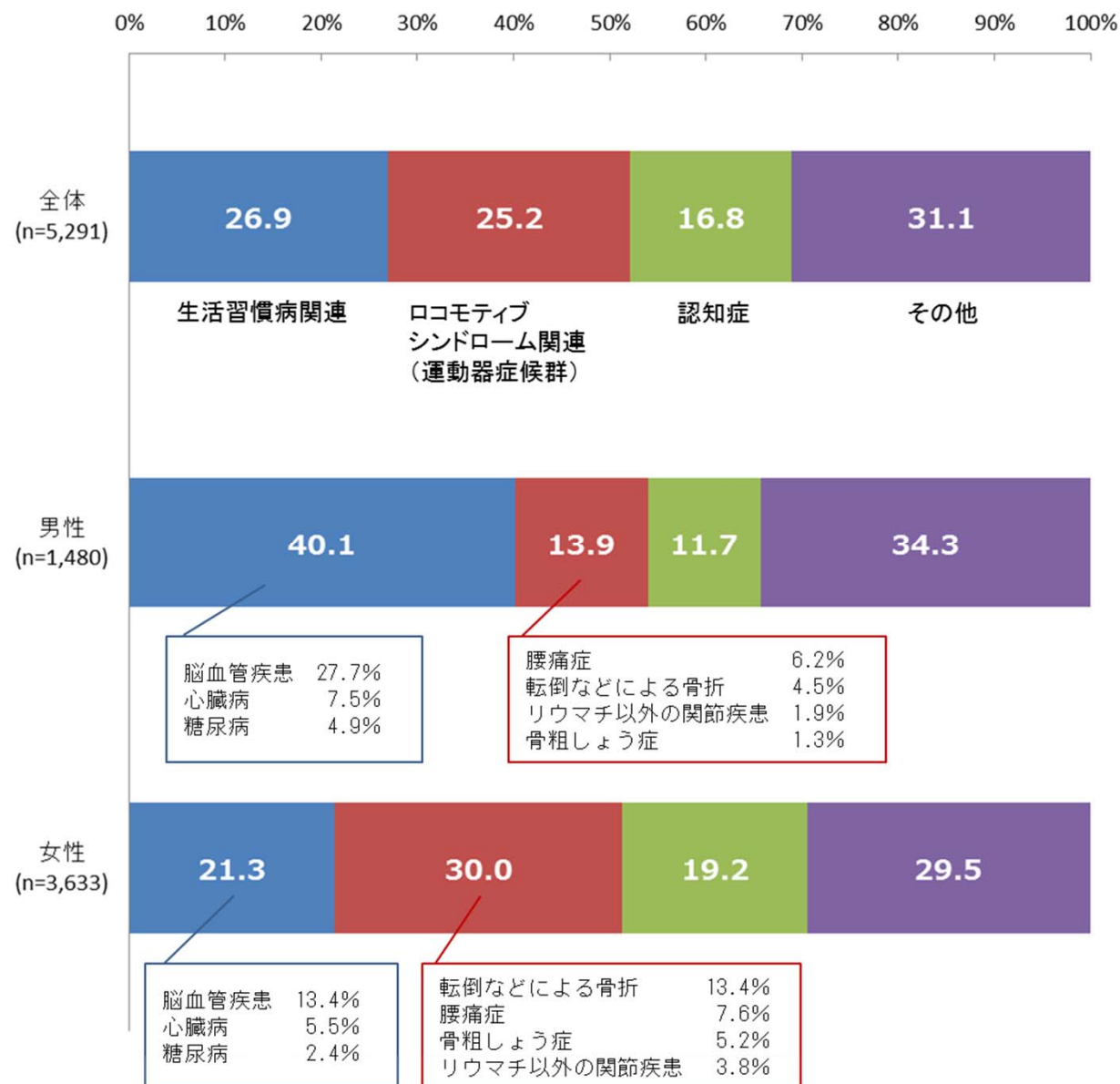


出典：秋山 弘子
 長寿時代の科学と社会の構想
 『科学』岩波書店，2010

要介護状態になった要因

男性の4割が生活習慣病関連, 女性の3割がロコモティブシンドローム〈福岡市〉

＜要介護状態になった主な原因(福岡市)＞



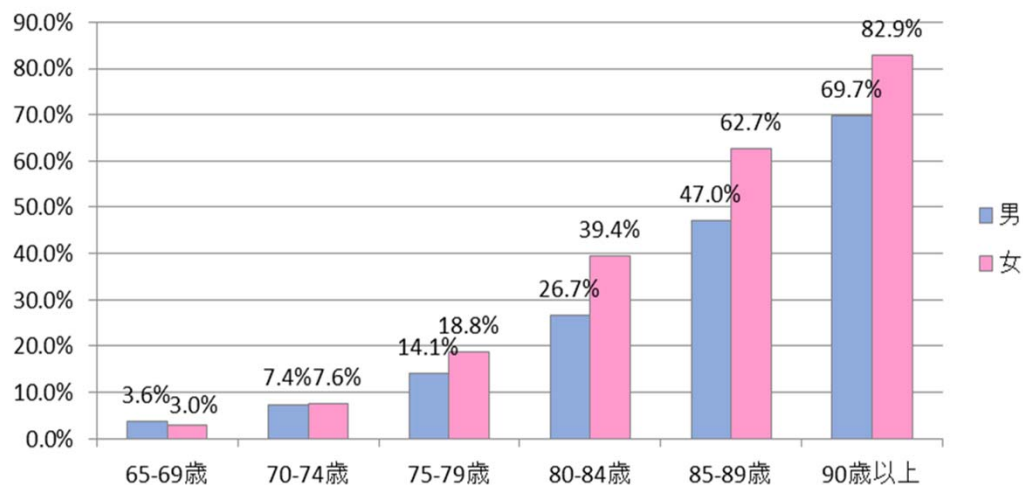
出典：平成25年度福岡市高齢者実態調査報告書
をもとに作成

(注1) 介護保険第2号被保険者（40～64歳）を含む。

(注2) 全体（n=5,291）には男女の別がわからない分の回答も含むため、男女の合計数とは一致しない。

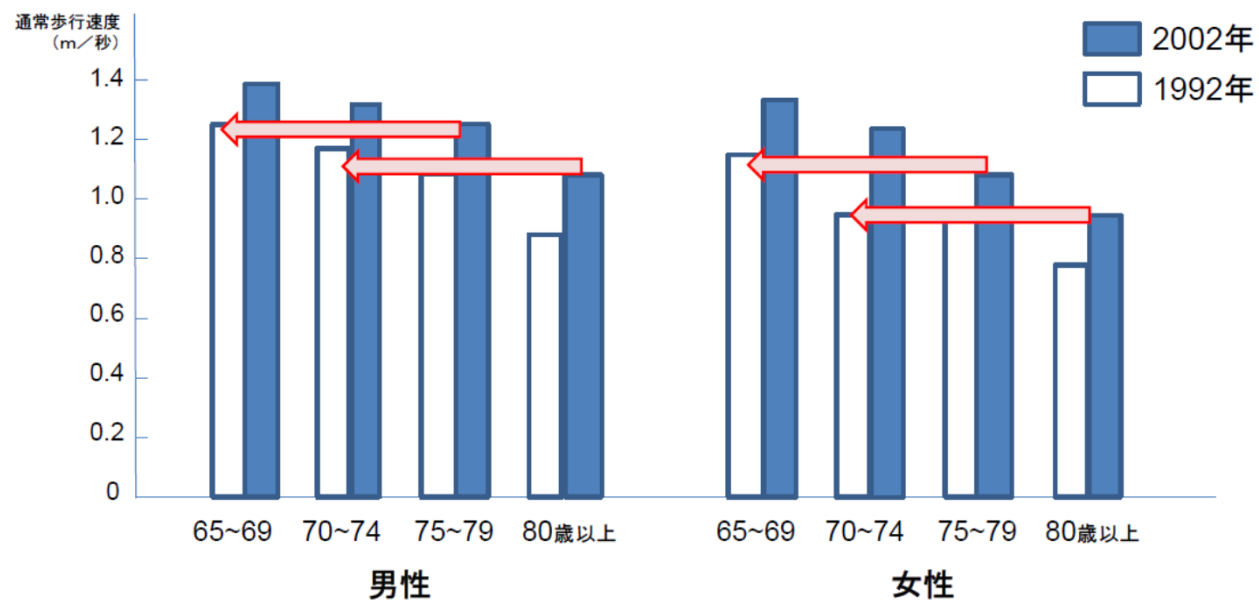
要介護認定を受けている前期高齢者 男女とも1割未満<福岡市> 高齢者の通常歩行速度 10年で10歳程度若返っている<全国>

<高齢者の要介護認定率(福岡市)>



出典：福岡市資料（平成26年3月）

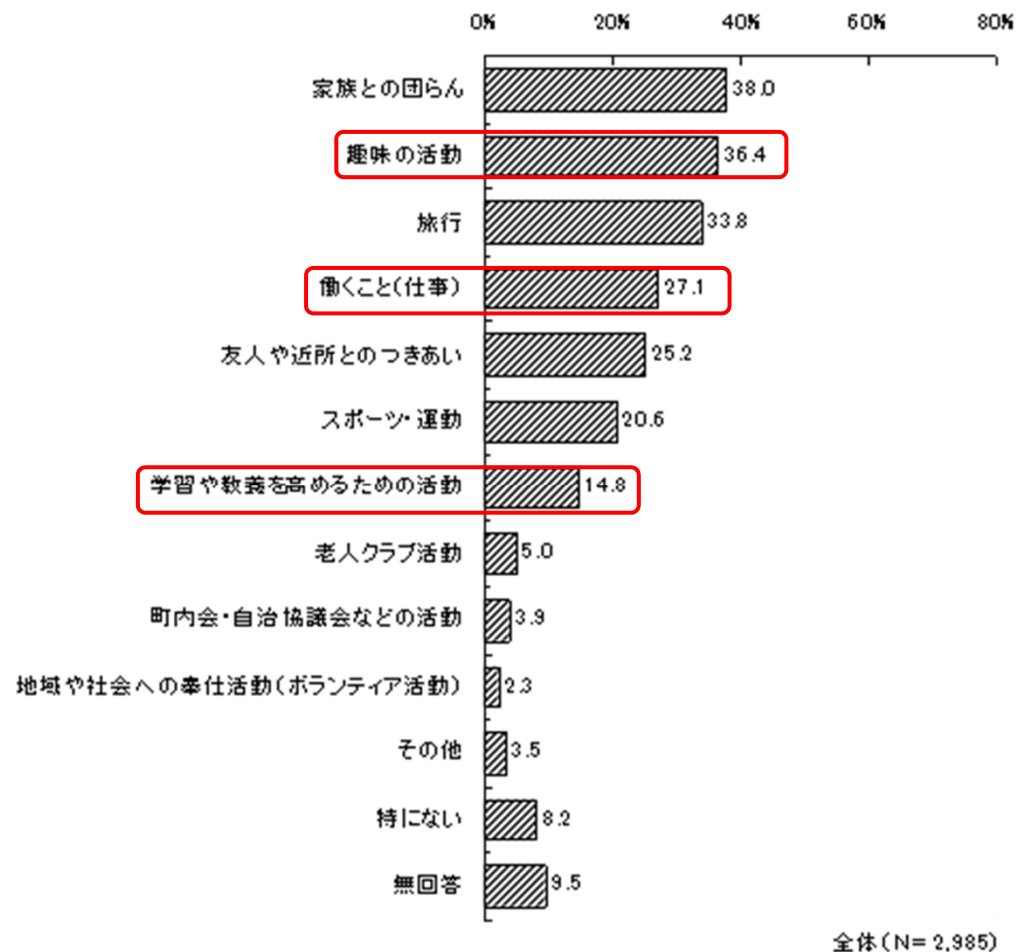
<年代ごとの歩行速度>



出典：鈴木隆雄他「日本人高齢者における身体機能の縦断的・横断的变化に関する研究」（第53巻第4号「厚生指標」2006年4月，p1-10）より引用

高齢者の生きがい 「働く」「学習や教養を高める」「趣味」の割合は増加 「旅行」「家族との団らん」「友人や近所との就きあい」の割合は減少〈福岡市〉

＜生きがいを感じること(福岡市)＞



	調査結果 (%)		増減幅 [a-b]
	H25年度 [a]	H22年度 [b]	
家族との団らん	38.0	40.9	▲ 2.9
趣味の活動	36.4	34.6	1.8
旅行	33.8	37.0	▲ 3.2
働くこと(仕事)	27.1	23.8	3.3
友人や近所とのつきあい	25.2	26.4	▲ 1.2
スポーツ・運動	20.6	20.2	0.4
学習や教養を高める ための活動	14.8	12.8	2.0
老人クラブ活動	5.0	4.5	0.5
町内会・自治協議会など の活動	3.9	4.7	▲ 0.8
地域や社会への奉仕活動 (ボランティア活動)	2.3	2.6	▲ 0.3
その他	3.5	1.9	1.6
特にない	8.2	12.1	▲ 3.9

出典：平成25年度福岡市高齢者実態調査〔福岡市〕

(注1) 調査への回答は、複数回答

(注2) 調査対象者…60歳以上の市内在住者

就業率 生産年齢層・高齢者層とも全国に比べ総じて低い 高齢者の有業者率 福岡県を0.5ポイント上回るも全国に比べ3.0ポイント低い〈福岡市〉

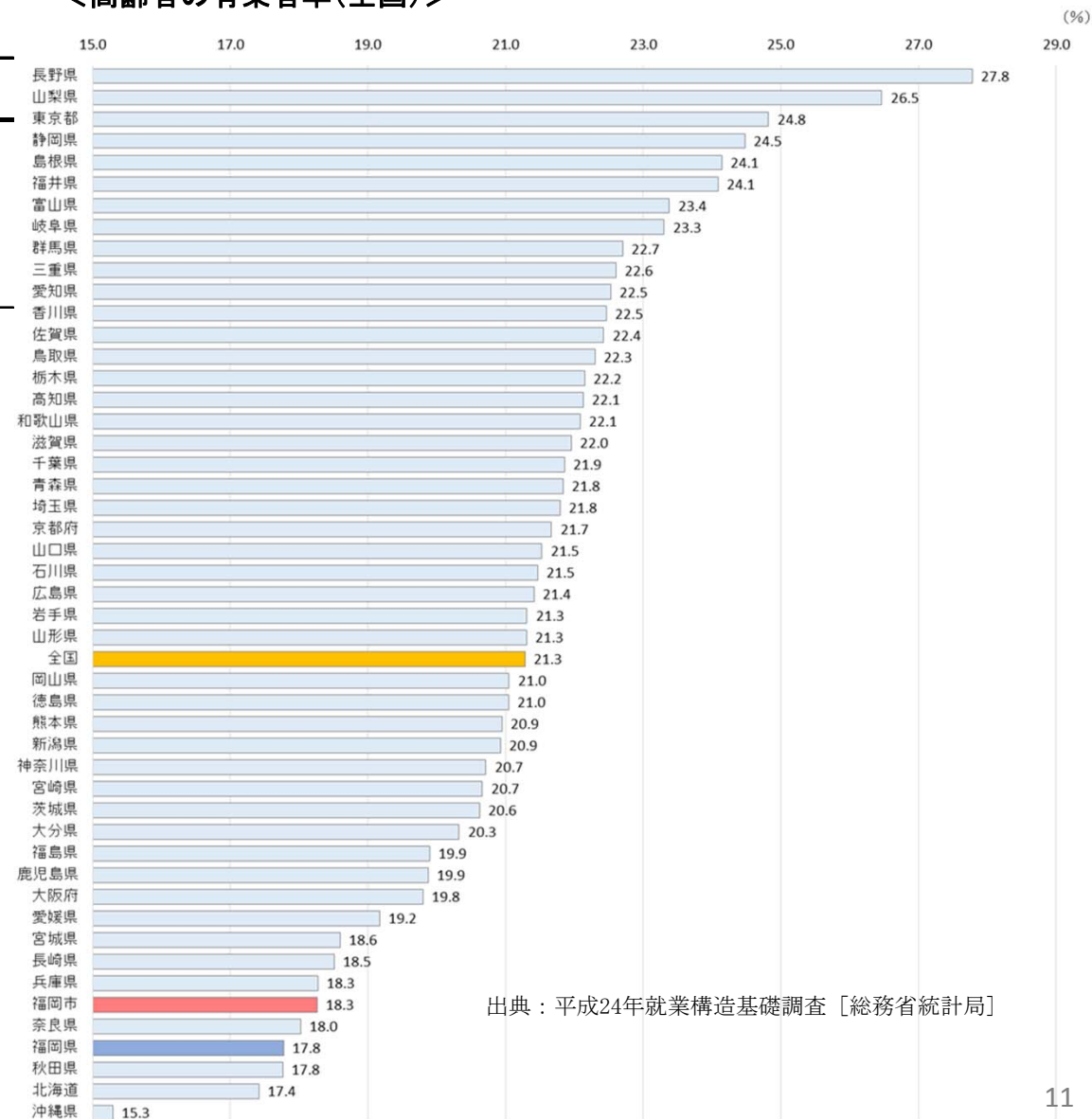
＜年齢階層別就業率(福岡市)＞

	(%)		
年齢	全体	男	女
15－64歳	70.7 (72.3)	79.1 (81.4)	63.0 (63.1)
65－74歳	28.6 (32.2)	39.9 (41.3)	19.4 (24.1)
75歳以上	6.8 (10.0)	12.8 (16.1)	3.2 (6.3)

出典：平成24年就業構造基礎調査〔総務省統計局〕

(注) () は全国値

＜高齢者の有業者率(全国)＞

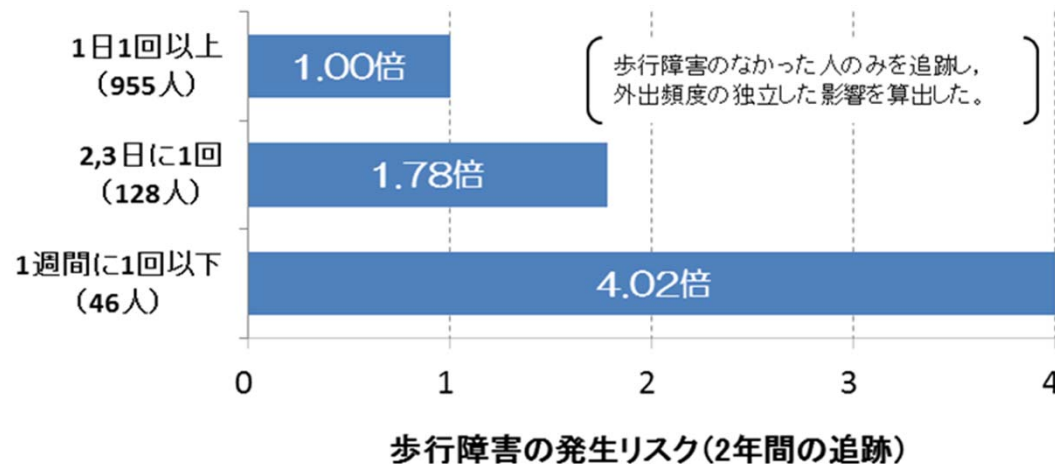


出典：平成24年就業構造基礎調査〔総務省統計局〕

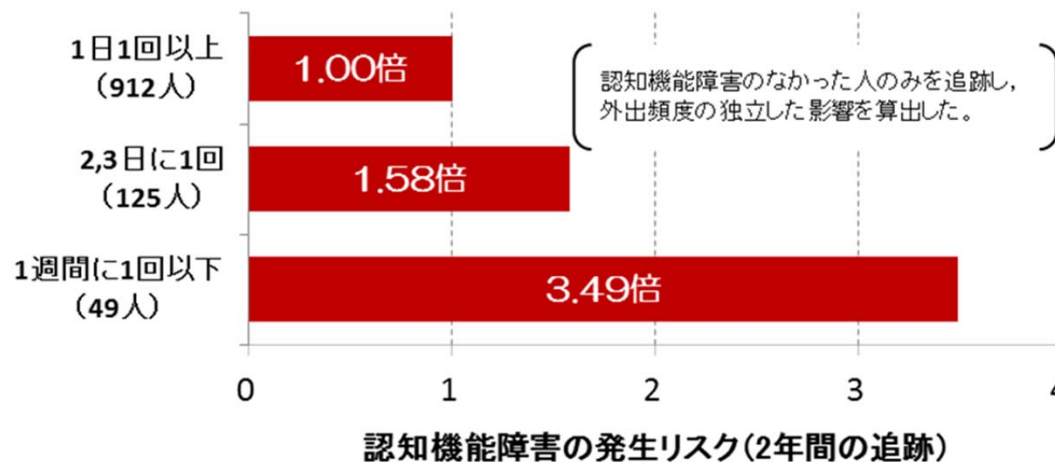
**週に1回以下しか外出しない人 毎日1回以上外出する人に比べて
歩行障害になるリスク4倍, 認知機能障害になるリスク3.5倍**

〈全国〉

＜外出頻度と歩行障害のリスク＞



＜外出頻度と認知機能障害のリスク＞



出典：老人研NEWS No. 219 2007. 3

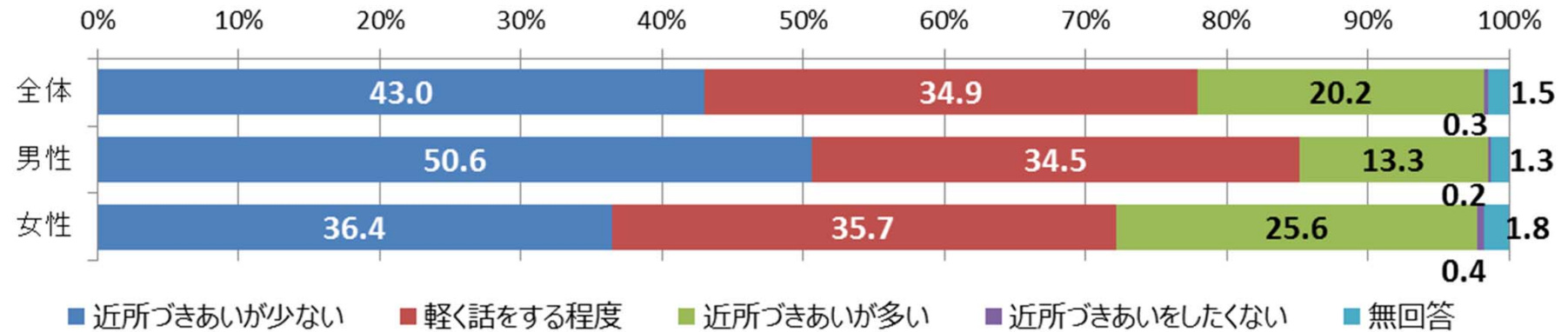
[東京都健康長寿医療センター]

(注1) 新潟県Y市65歳以上の高齢者を対象に2000年から2年間追跡調査した結果

(注2) もともとの健康状態や社会的役割の差による影響を除いて比較

近所づきあいが少ないと感じている高齢者 男性50.6％，女性36.4％〈福岡市〉

〈近所付き合い(福岡市)〉



出典：平成25年度福岡市高齢者実態調査〔福岡市〕

(注1) 調査対象者…60歳以上の市内在住者

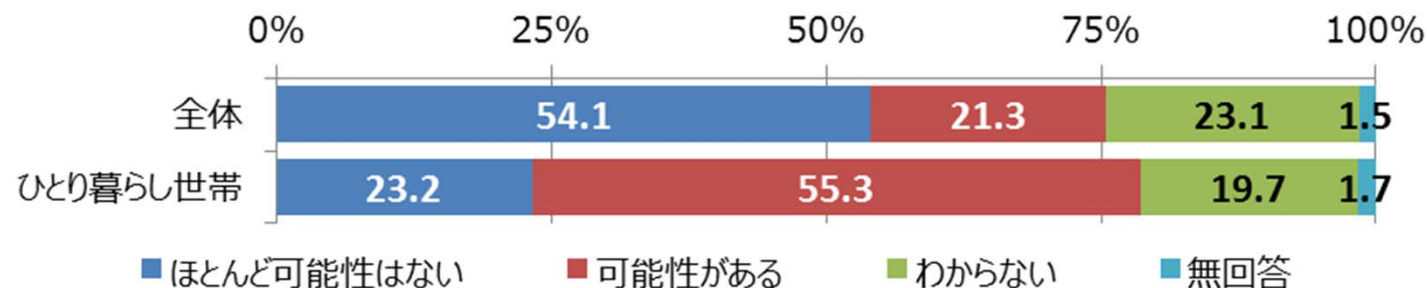
(注2) 近所付き合いが少ない人…「ほとんどつきあいがなく、道で会えばあいさつする程度」

近所付き合いが多い人…「話や訪問しあう人がいる、悩みや困ったときに頼みあうほどの人がいる」

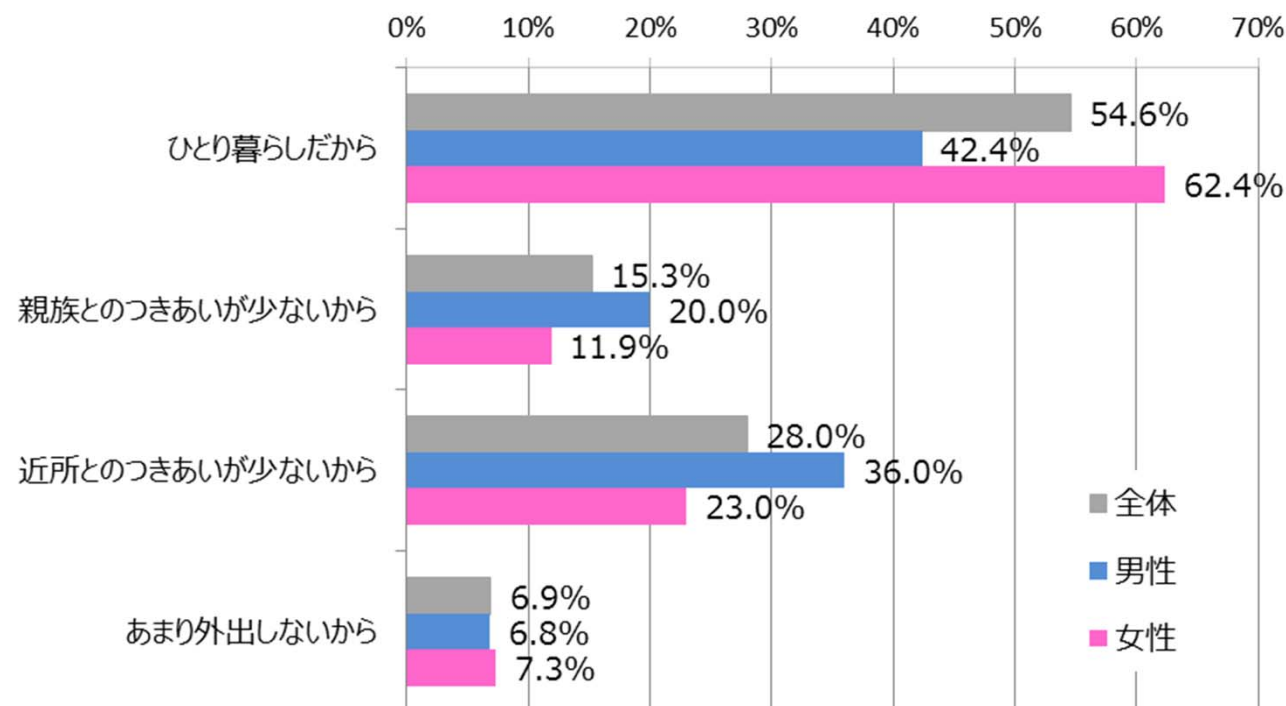
孤立死の可能性 ひとり暮らし高齢者の半数以上が感じている

感じる理由 男性「親族・近所とのつきあいの少なさ」 女性「ひとり暮らし」〈福岡市〉

＜孤立死する可能性(福岡市)＞



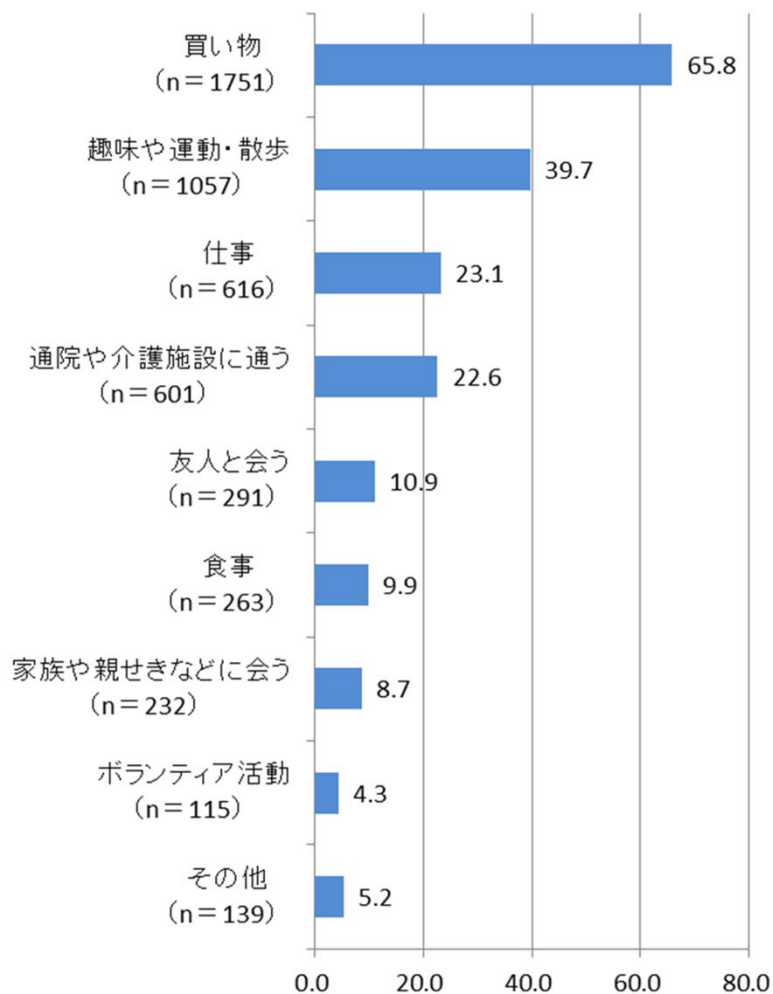
＜孤立死する可能性があると思う理由(福岡市)＞ ※複数回答



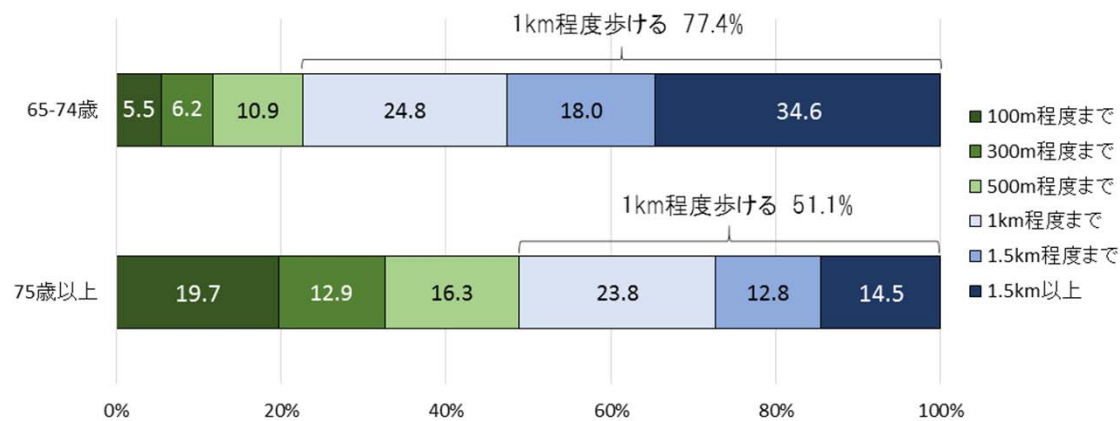
出典：平成25年度福岡市高齢者
実態調査〔福岡市〕
(注) 調査対象者…60歳以上の
市内在住者

外出目的 買い物が6割以上、続いて趣味や運動・散歩が4割弱〈福岡市〉
1km程度歩ける高齢者の割合 後期高齢者は前期高齢者に比べ26.3ポイント低下し約5割〈全国〉

＜外出目的(福岡市)＞



＜徒歩移動が可能な距離の人数構成比(全国)＞



出典：都市における人の動き（平成20年3月）〔国土交通省〕

（注）徒歩には、補助器具の使用による徒歩も含む

出典：平成25年度福岡市高齢者実態調査〔福岡市〕

（注1）調査への回答は、複数回答

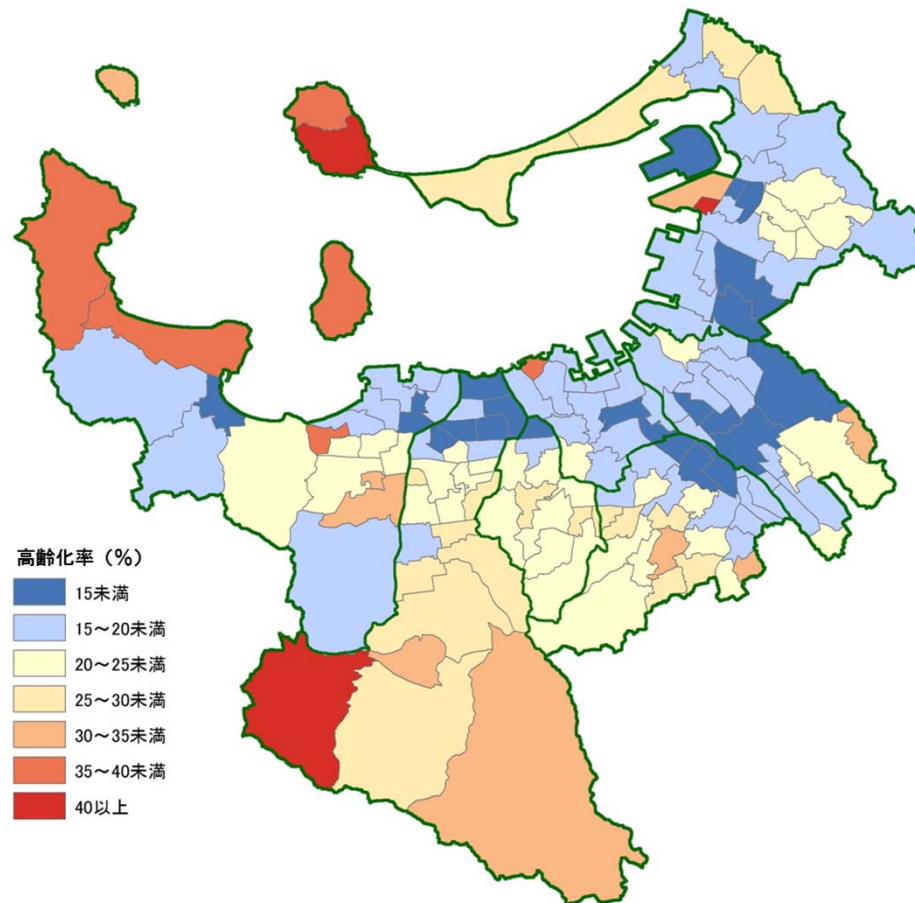
（注2）調査結果のうち「無回答」データを除き集計

（注3）調査対象者…60歳以上の市内在住者

都心部から離れていくほど高い傾向 高齢化率

高齢化率30%超, 65歳以上人口1,000人超 城浜, 福浜, 今津, 西陵, 壱岐南<福岡市>

<2014年の校区別高齢化率>



<校区別高齢化率 上位10校区>

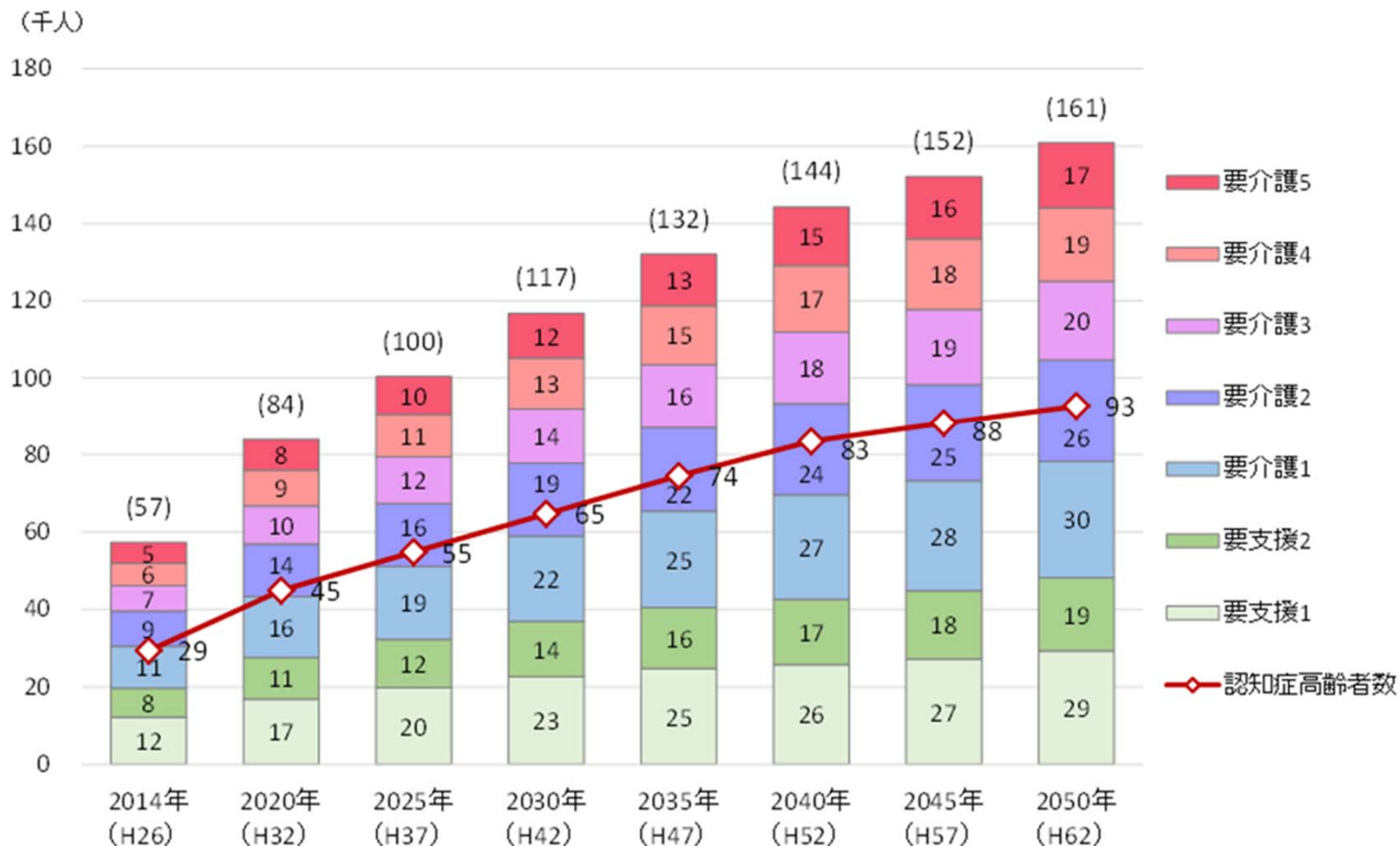
	小学 校区	区	校区人口		
			高齢化率 (%)	65歳以上 人口(人)	総人口 (人)
1	曲淵	早良	46.0	75	163
2	城浜	東	43.4	1,545	3,564
3	志賀島	東	41.9	652	1,555
4	福浜	中央	38.6	2,016	5,225
5	能古	西	38.3	271	707
6	今津	西	36.6	1,097	2,997
7	西陵	西	36.5	1,977	5,414
8	北崎	西	35.2	882	2,506
8	勝馬	東	35.2	89	253
10	壱岐南	西	33.1	3,447	10,423

出典：住民基本台帳（日本人人口：平成26年9月現在）[福岡市]

10年後の2025年

要介護高齢者10万人 1.8倍， 認知症高齢者 5.5万人 1.9倍 ※2014年比 〈福岡市〉

〈要介護高齢者と認知症高齢者の将来推計(福岡市)〉



出典：高齢者の保健と福祉に関する総合ビジョン〔高齢者の保健と福祉に関する総合ビジョン策定会議〕

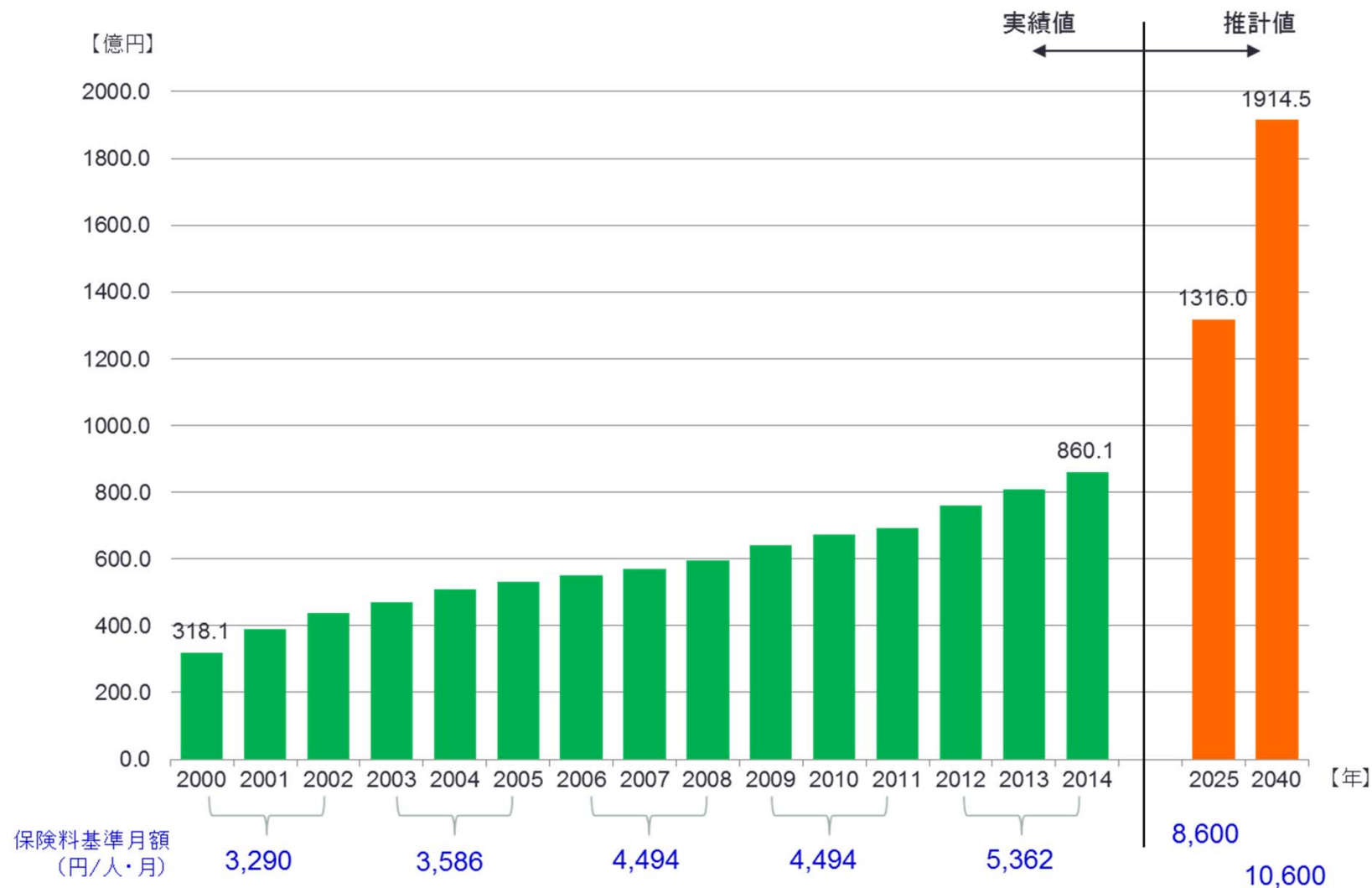
(注1) 要介護認定者数は、2014（平成26）年1月時点の要介護認定区分の割合に、「福岡市の将来人口推計(平成24年3月)〈福岡市〉」に乗じて算出

(注2) 認知症高齢者数は、2014（平成26）年1月時点で、福岡市の要介護認定者に占める日常生活自立度Ⅱ以上の要介護高齢者(年齢区分ごと)の割合に、要介護認定者数の推計を乗じて算出

(注3) 2014（平成26）年の人口は、「住民基本台帳（平成26年1月）〈福岡市〉」の値を参照

10年後の2025年 保険給付費:1,316億円(456億円増 1.5倍)
 保険料基準月額:8,600円(3,238円増 1.6倍) ※2014年比 〈福岡市〉

＜介護保険給付費・保険料基準月額の推移とシュミレーション(福岡市)＞

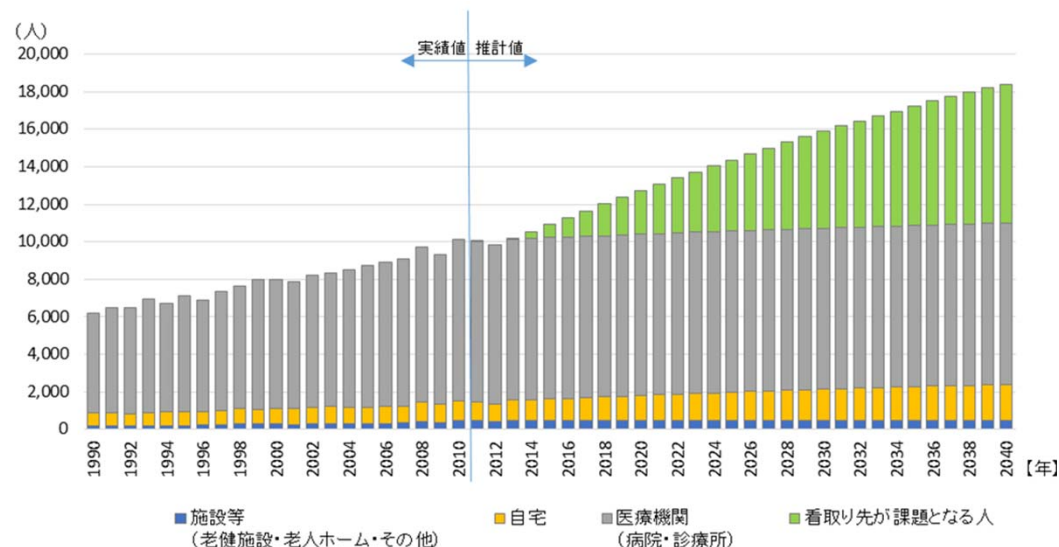


10年後の2025年 在宅医療を受ける後期高齢者 約6,200人 1.9倍
 看取り先が課題となる人 約3,800人 10.0倍 ※2014年比 〈福岡市〉

〈在宅医療を受ける高齢者の将来推計(福岡市)〉



〈死亡者数の将来推計と亡くなる場所(福岡市)〉



出典：高齢者の保健と福祉に関する総合ビジョン

〔高齢者の保健と福祉に関する総合ビジョン策定会議〕

(注1) 「在宅医療の最近の動向〔厚生労働省医政局在宅医療推進室〕」における「在宅医療を受ける患者の人口比」に、「福岡市の将来人口推計(平成24年3月)〔福岡市〕」を乗じて算出

(注2) 2014(平成26)年の人口は、「住民基本台帳(平成26年1月)〔福岡市〕」を参照

出典：高齢者の保健と福祉に関する総合ビジョン

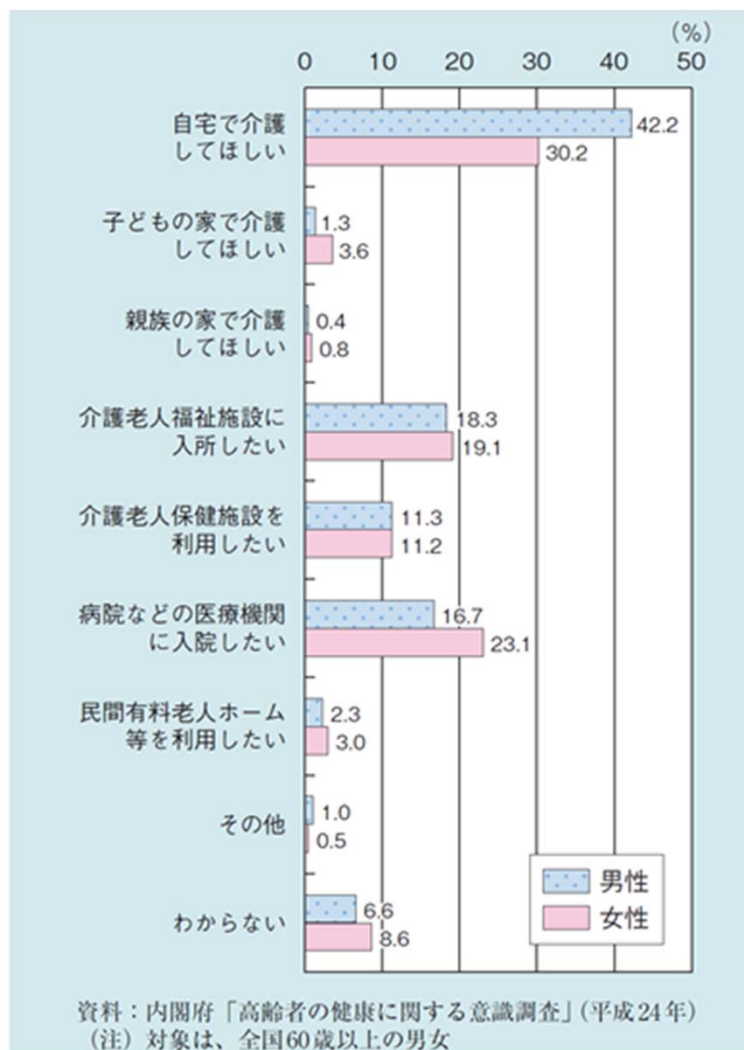
〔高齢者の保健と福祉に関する総合ビジョン策定会議〕

(注1) 実績値は「平成24年保健統計年報〔福岡市〕」の平成22年までの実績を参照

(注2) 推計値(死亡場所)の内訳は、平成22年の実績値を基に、「医療機関」「施設等(老人ホーム・老健施設・その他)」は、今後の受入数が増加せず(病院・施設数が増加しない)、実績値が継続すると仮定し、「自宅」については、当該年の割合(10.4%)で推移すると仮定し、「福岡市の将来人口推計(平成24年3月)〔福岡市〕」における死亡者数の推計値を乗じて算出

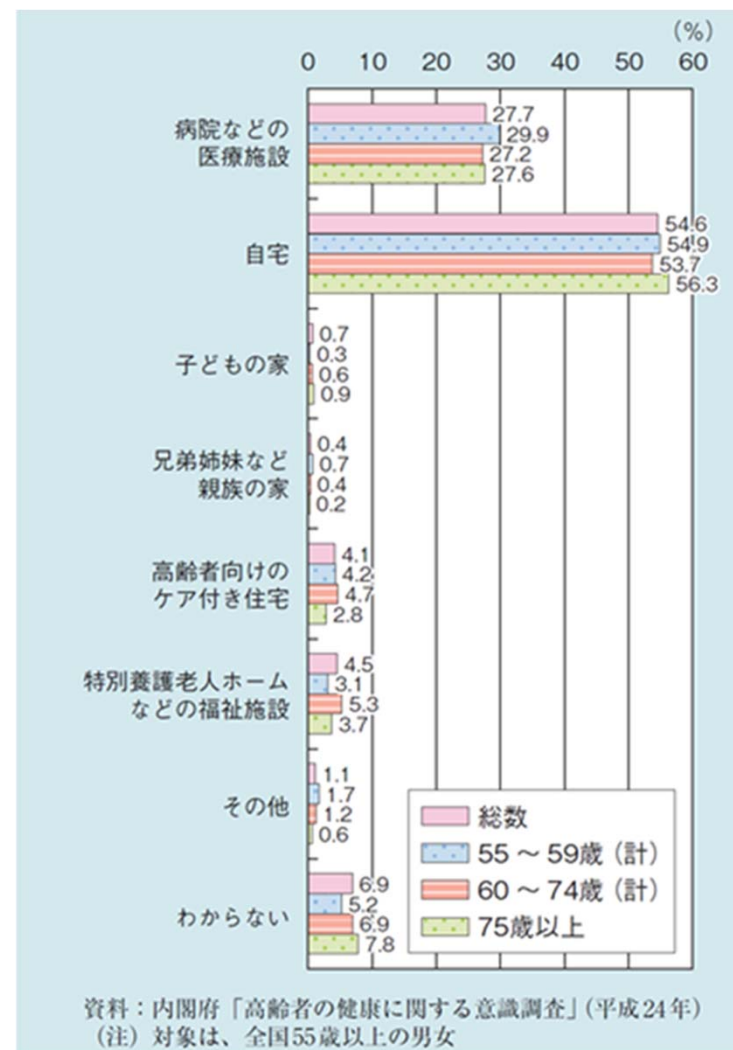
介護を受けたい場所「自宅」が男性約4割、女性3割 最期を迎えたい場所「自宅」が半数を超える〈全国〉

＜介護を受けたい場所(全国)＞



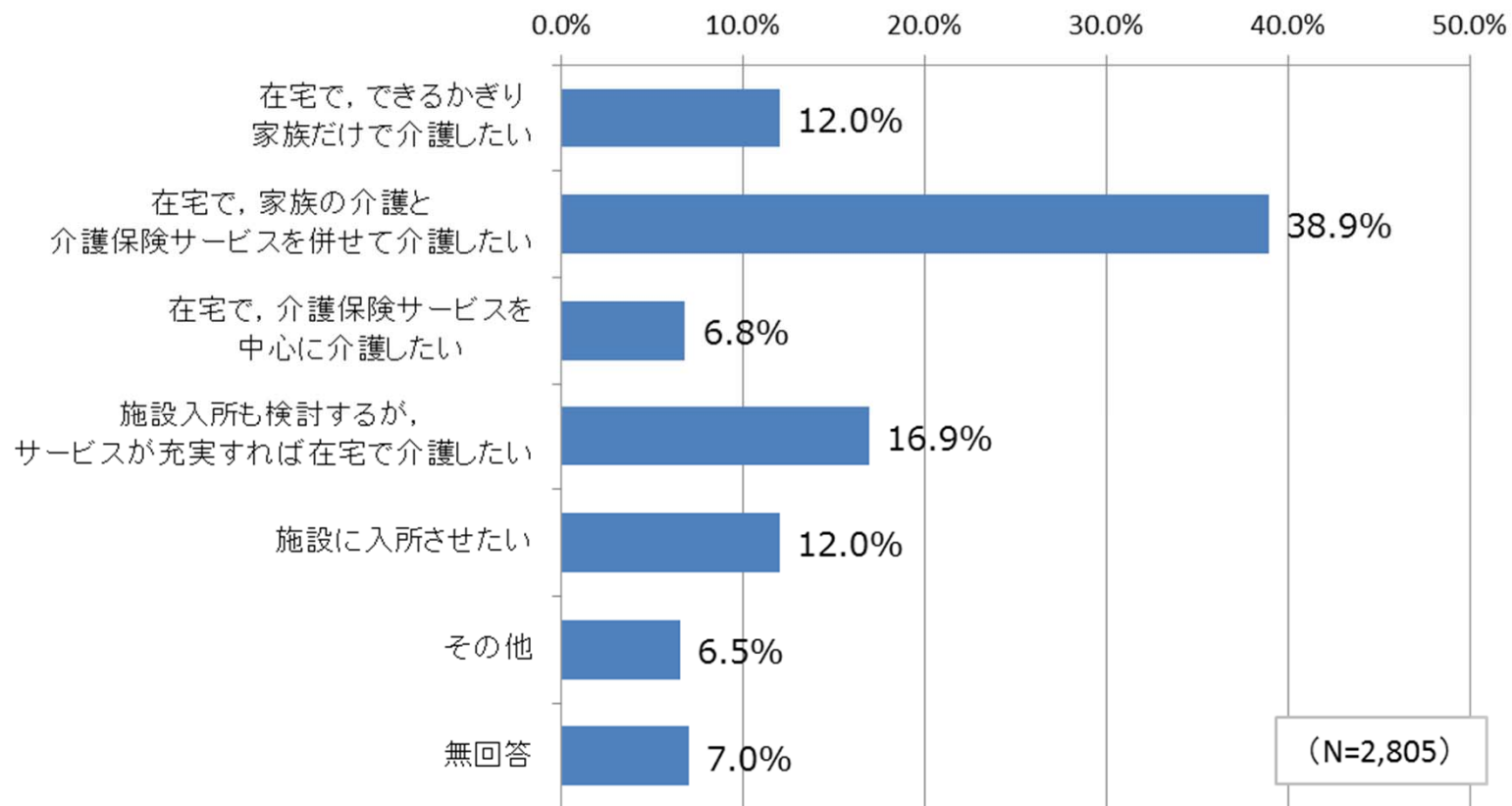
出典：平成26年版高齢社会白書〔厚生労働省〕

＜最期を迎えたい場所(全国)＞



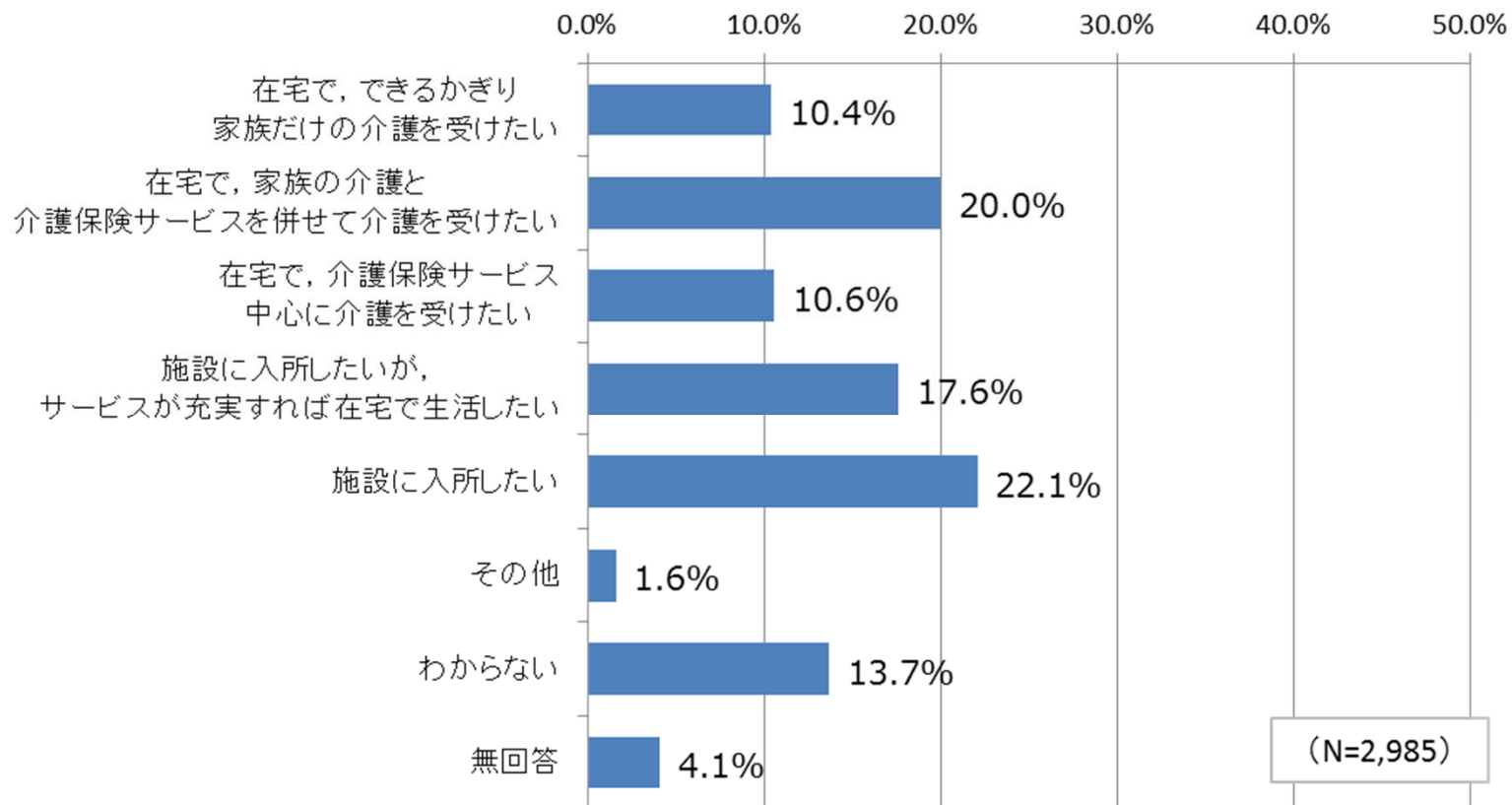
介護に対する介護者の考え「在宅で介護したい 74.6%」〈福岡市〉

＜Q. 今後、どのように介護をしていきたいか＞



介護が必要になったときの考え「在宅で介護を受けながら生活したい 58.6%」＜福岡市＞

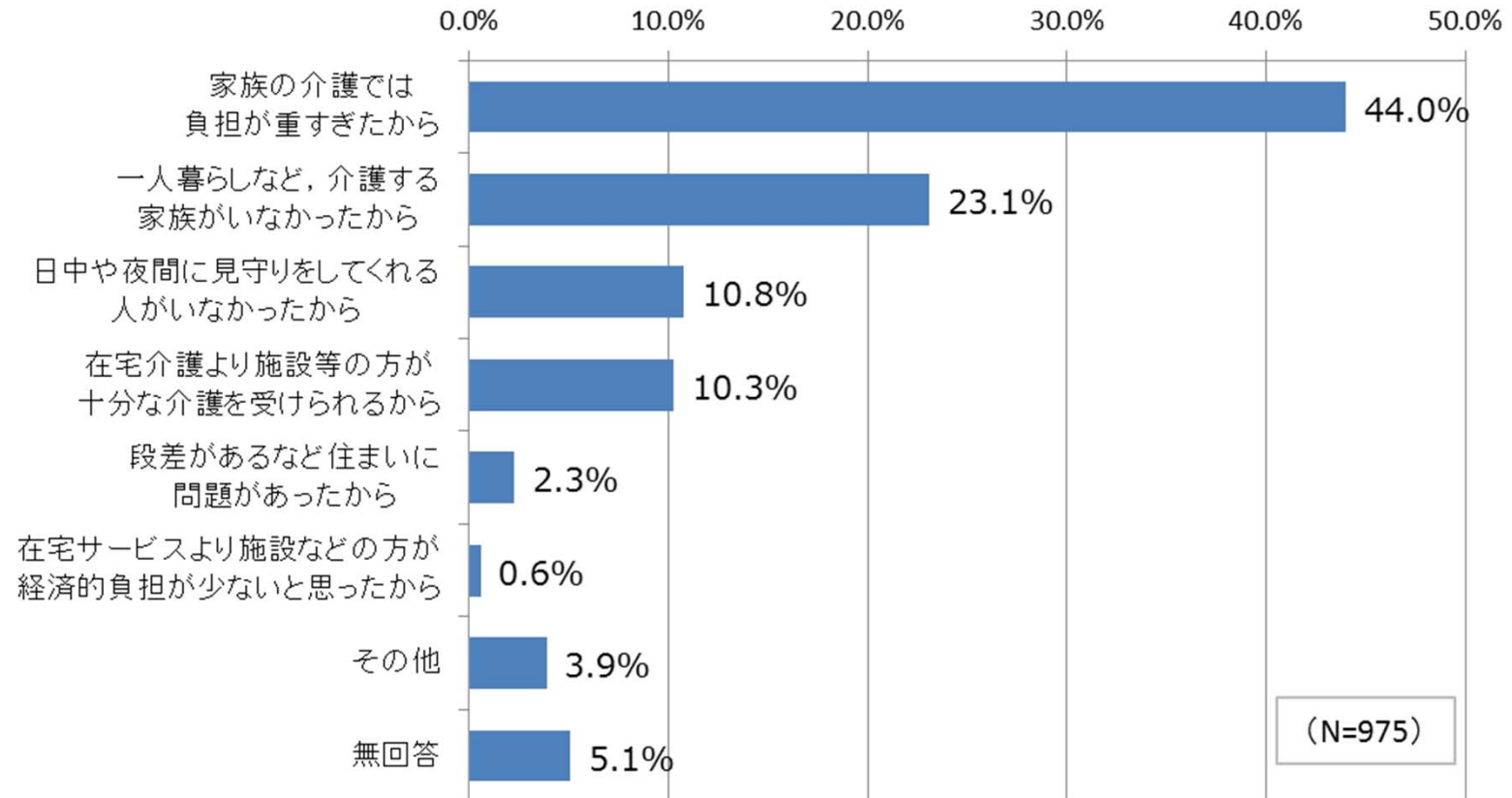
＜Q. 今後、どのように介護を受けていきたいか＞



出典：平成25年度福岡市高齢者実態調査報告書

施設等を希望した理由「家族の介護では負担が重すぎたから 44.0%」で最多〈福岡市〉

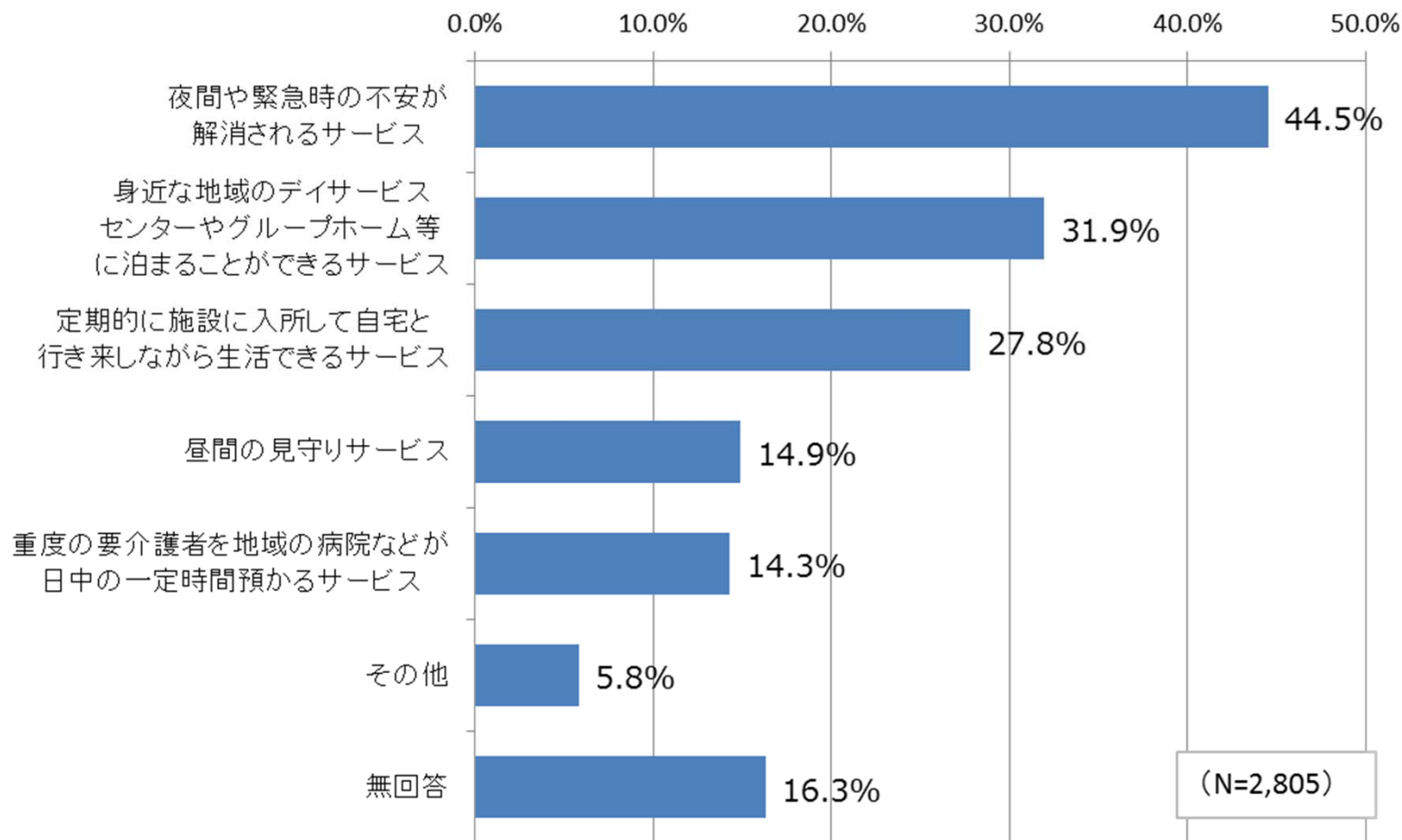
＜Q. なぜ、施設等を希望したのか＞



出典：平成25年度福岡市高齢者実態調査報告書

介護者が在宅介護を続ける上で必要と思うもの 「夜間や緊急時の不安が解消されるサービス 44.5%」で最多〈福岡市〉

＜Q. 在宅介護を続けるために必要性が高い(利用したい)サービスは＞

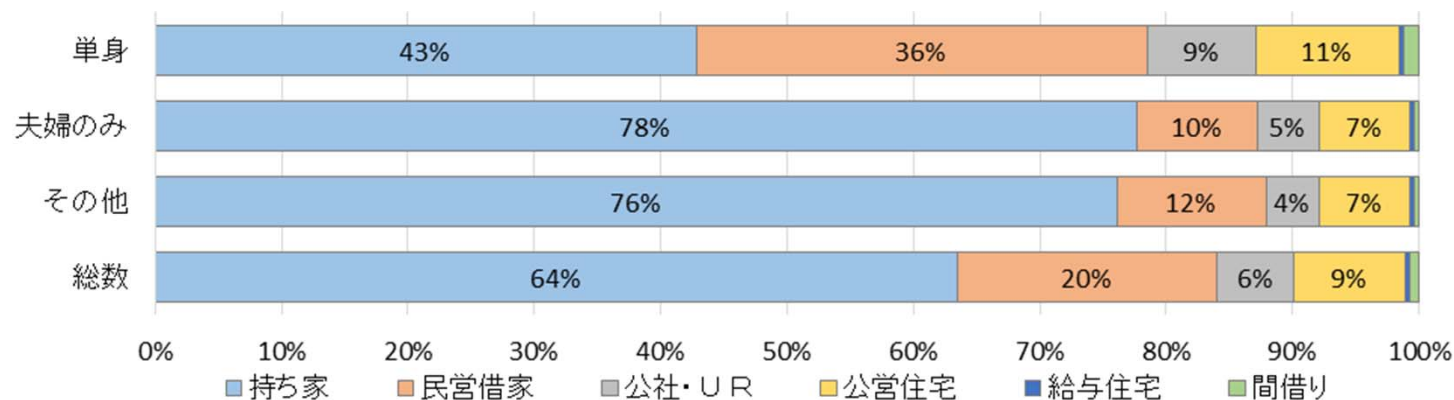


出典：平成25年度福岡市高齢者実態調査報告書
(注)複数回答

65歳以上の単身高齢者世帯 民間借家率36%

高齢者の入居を断る理由として「病気や居室内での死亡などへの不安」が約8割〈福岡市〉

＜世帯主が65歳以上の世帯の住宅所有関係（福岡市）＞



出典：平成22年国勢調査〔総務省統計局〕

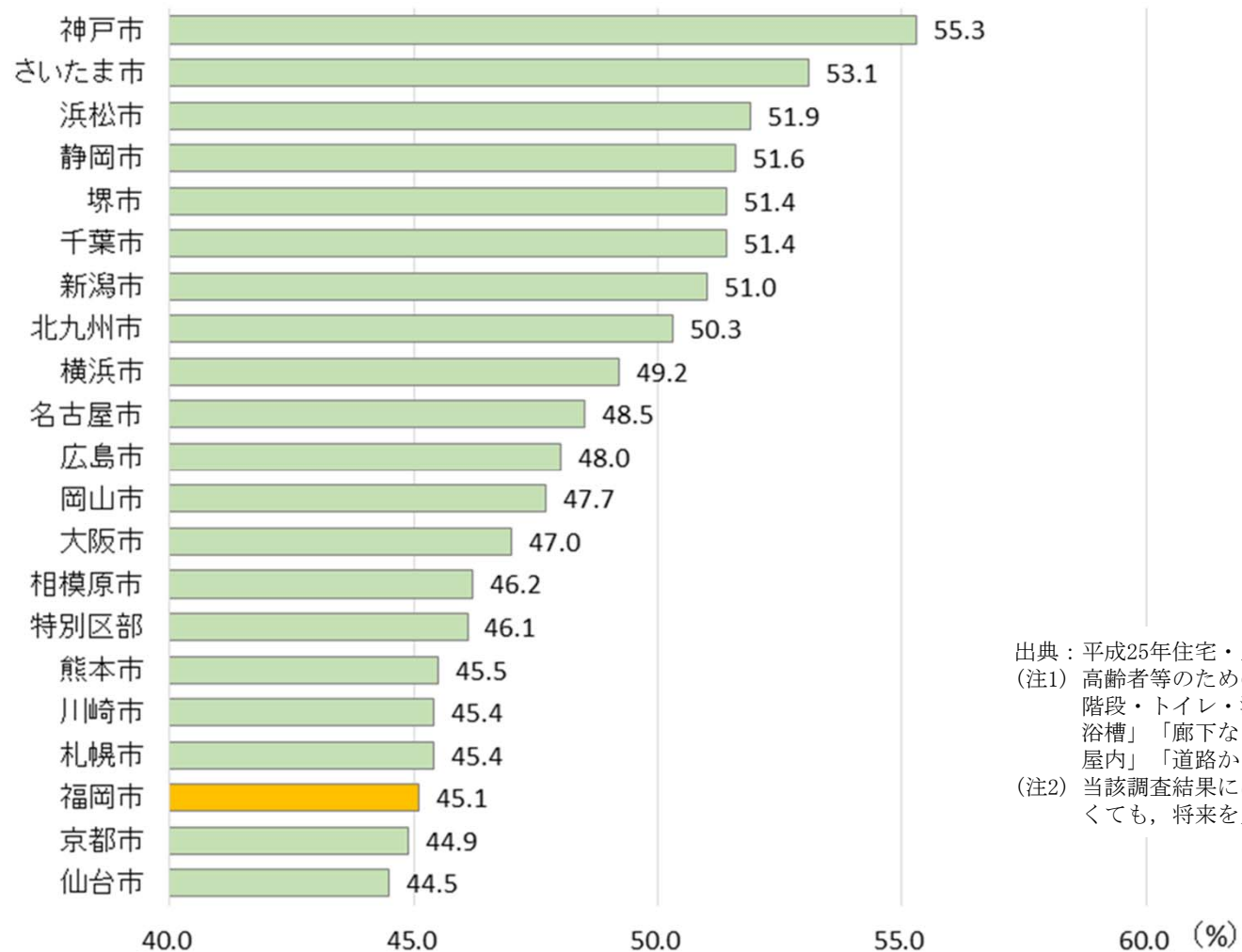
＜高齢者の入居を断る主な理由（福岡市）＞

主な理由（複数回答）	構成割合
病気や居室内での死亡などへの不安	79.4%
火災や事故の発生などへの不安	50.4%
連帯保証人がいないことへの不安	38.2%
家賃の支払いに対する不安	33.6%

出典：民間賃貸住宅の管理等に関するアンケート調査（平成21年度）〔福岡市〕

バリアフリー化率 東京都区部を含む21大都市中19位〈全国〉

〈高齢者等のための設備がある住宅の割合(21大都市(東京都区部, 政令市))〉



出典：平成25年住宅・土地統計調査結果〔総務省統計局〕

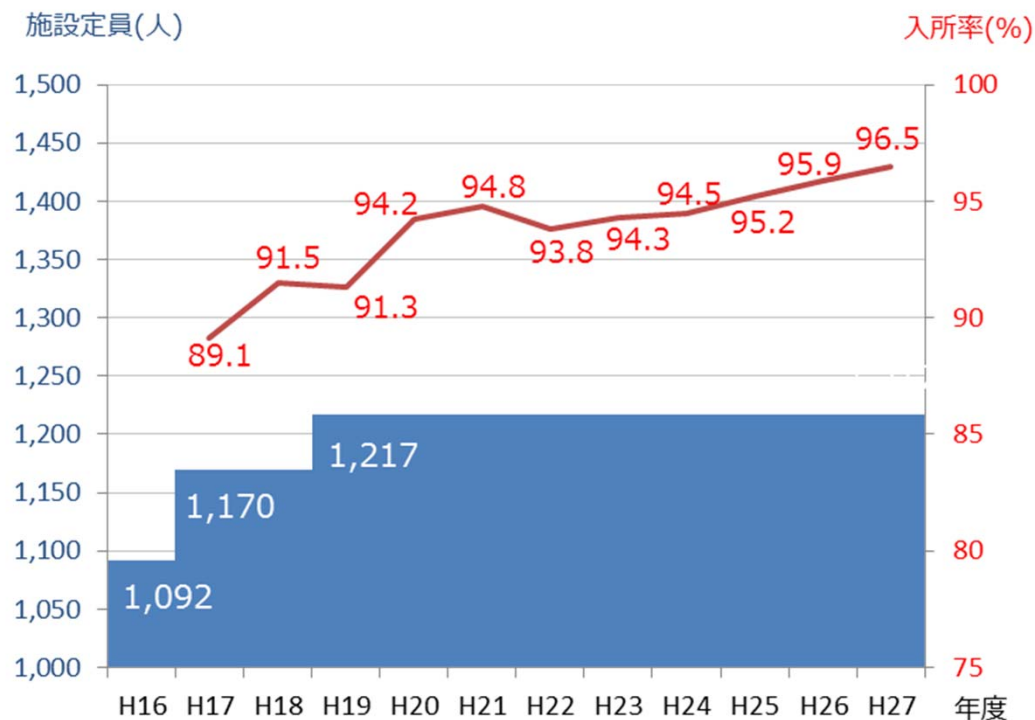
(注1) 高齢者等のための設備…

階段・トイレ・浴室の「手すり」, 「またぎやすい高さの浴槽」「廊下などが車いすで通行可能な幅」「段差のない屋内」「道路から玄関まで車いすで通行可能」

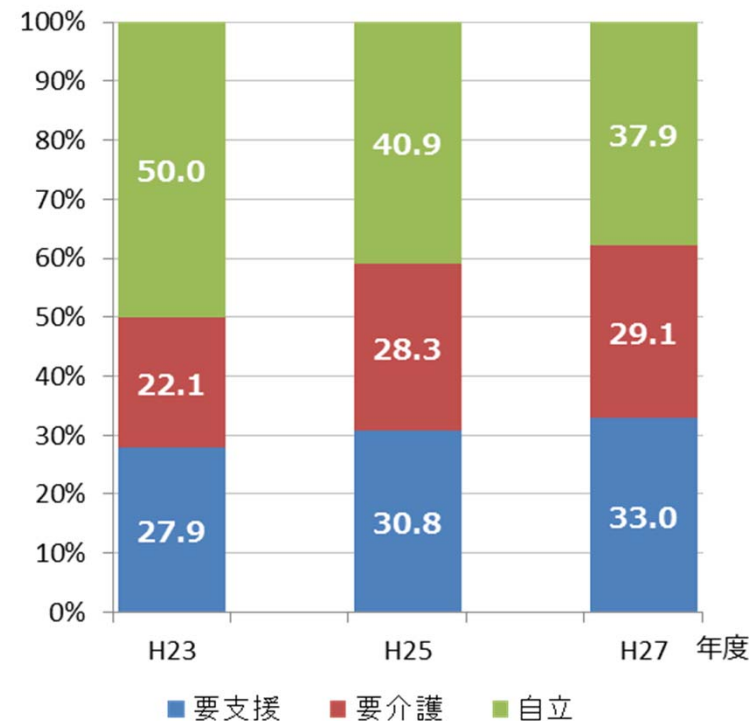
(注2) 当該調査結果には、調査時点で高齢者(65歳以上)がいなくても、将来を見越して工事した場合の上記設備も含む。

軽費老人ホーム 常に定員いっぱい 自立して生活できる入所者は減少傾向 H27年度12.1ポイント減(対H23年度比)

＜軽費老人ホームの定員・入所率の推移＞



＜軽費老人ホーム入所者の要介護状況の推移＞



出典：福岡市

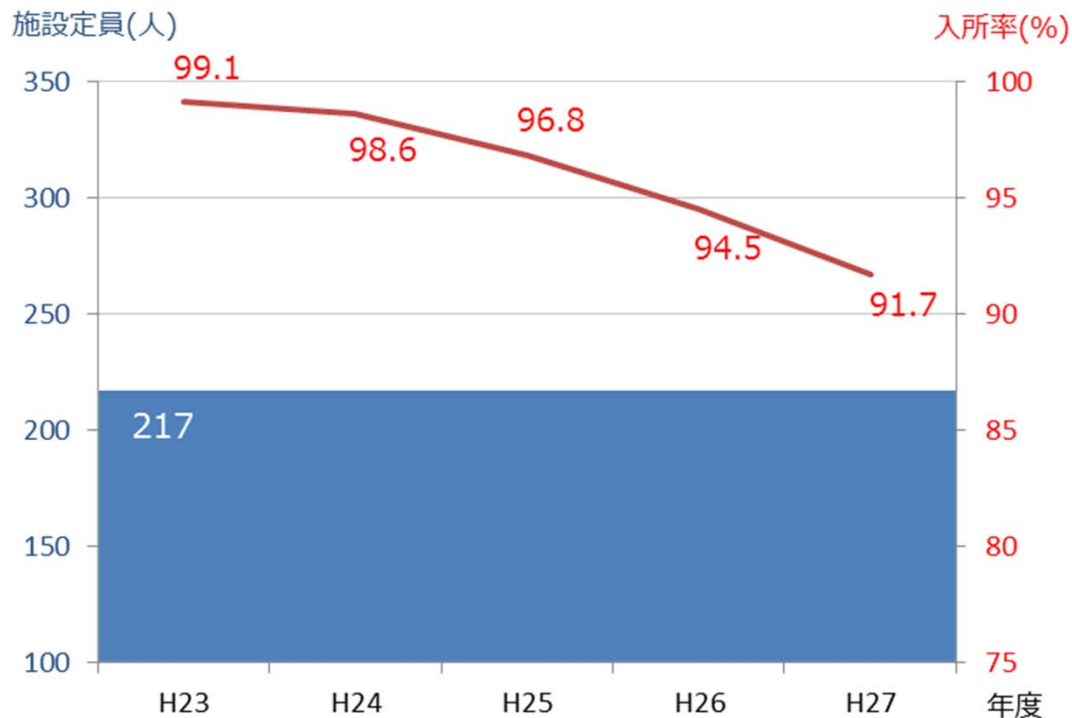
(注1) 軽費老人ホーム…無料又は低額な料金で、老人を入所させ、食事の提供その他日常生活に必要な便宜を供与する施設

(注2) 入所率＝各年4月1日時点の入所者数÷施設定員数 ただし、H16年度は不明

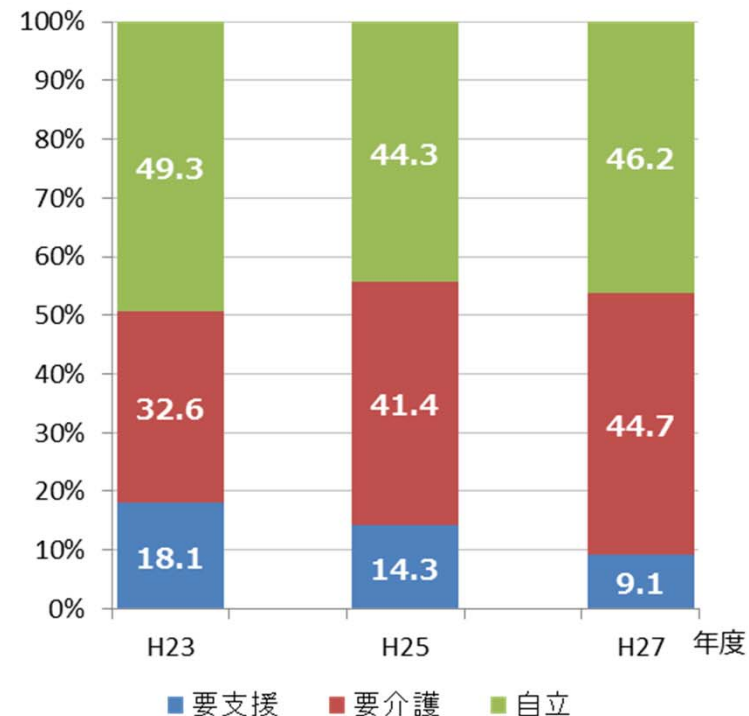
(注3) 入所者の要介護状況別割合は、各年4月1日時点の入所者数における割合

養護老人ホーム 入所率は低下傾向だが、9割以上 自立して生活できる入所者は減少傾向 H27年8.3ポイント減(対H23年比)

＜養護老人ホームの定員・入所率の推移＞



＜養護老人ホーム入所者の要介護状況の推移＞



出典：福岡市

(注1) 養護老人ホーム…環境上の理由や経済的理由により、居宅において

養護を受けることが困難な65歳以上の者が入所する施設（措置入所）

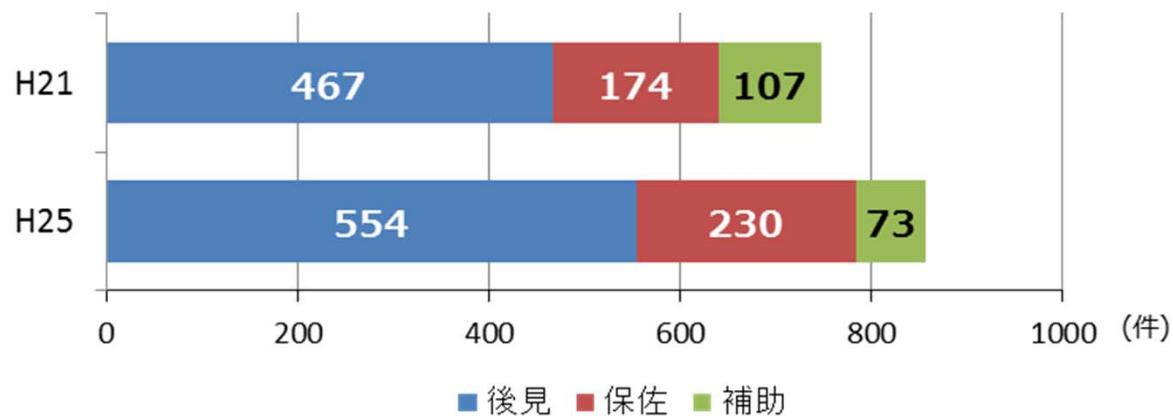
(注2) 施設定員は、博多老人ホーム、松月園、田尻苑の定員の合計。松濤園は含まず。

(注3) 入所率＝各年4月1日時点の入所者数÷施設定員数 ただし、H16年度は不明

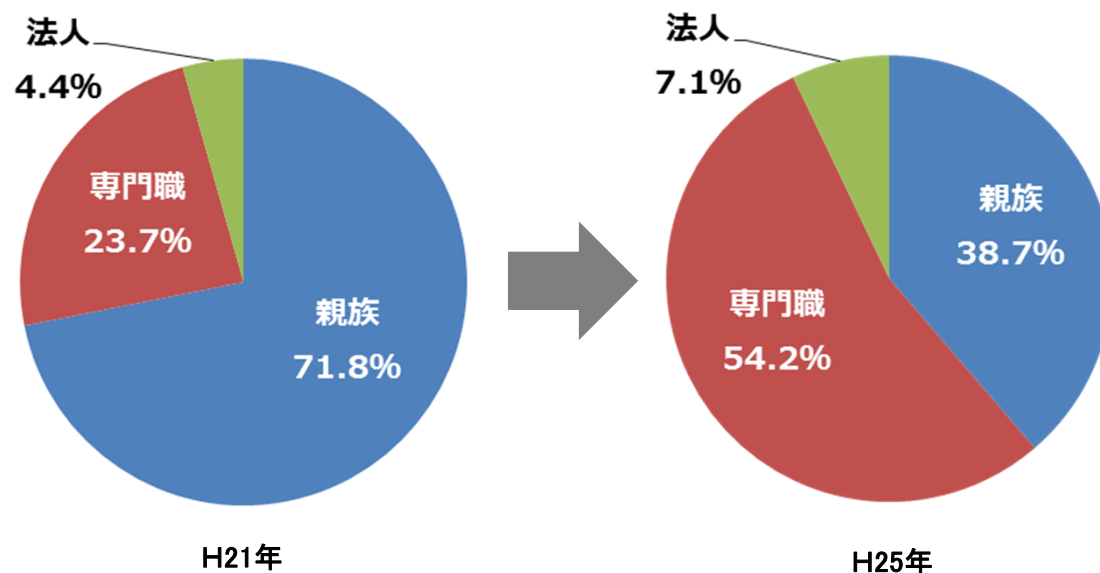
(注4) 入所者の要介護状況別割合は、各年4月1日時点の入所者数における割合

成年後見申立件数 全体で14.6%増, うち後見 18.6%増, 保佐 32.2%増
成年後見人等の担い手 「親族」から「専門職」へ大きくシフト
〈福岡市〉

＜成年後見制度申立件数(福岡家庭裁判所(本庁))＞



＜本人と後見人等との関係(福岡家庭裁判所(管内))＞



出典：成年後見関係事件の概況〔最高裁判所〕

(注1) 成年後見制度…認知症, 知的障がい, 精神障がいなどによって物事を判断する能力が十分でない方(ここでは「本人」という。)について, 本人の権利を守る援助者(「成年後見人」等)を選ぶことで, 本人を法的に支援する制度。

(注2) 後見制度の対象者

- ①後見…判断能力が全くない方への後見制度
- ②保佐…判断能力が著しく不十分な方
- ③補助…判断能力が不十分な方

(注3) 専門職…弁護士, 司法書士, 社会福祉士等

平成25年成年後見制度利用者数 前年比 322人, 4.9%増加
成年後見制度 市長申立はほぼ高齢者

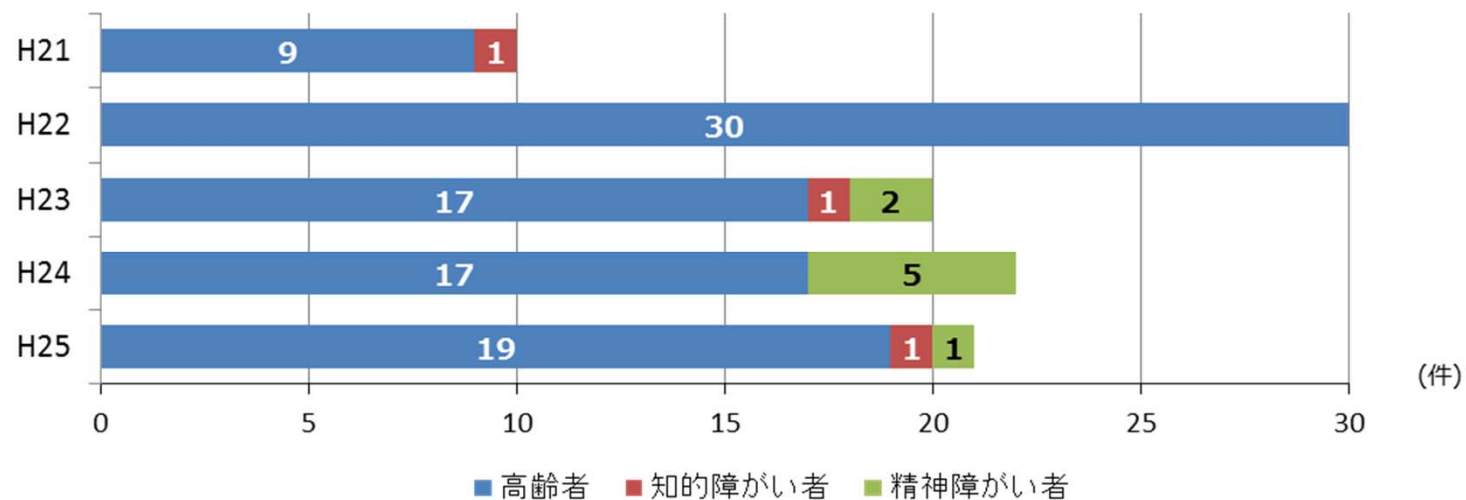
〈福岡市〉

〈成年後見制度の利用者数(福岡家庭裁判所(管内))〉

	利用者数(人)	前年度比	
		人数	伸び率
H24	6,559	—	—
H25	6,881	322	4.9%

出典：成年後見関係事件の概況〔最高裁判所〕

〈成年後見制度利用支援事業 市長申立件数(福岡市)〉



出典：福岡市